

平成30年度

千葉県市町村職員海外派遣研修

報 告 書

公益財団法人 千葉県市町村振興協会

は し が き

本協会では、市町村の職員が、諸外国における行政の実情を直接調査研究することにより、行政能力の向上を図り、併せて国際的視野と見識をもった人材を育成するため、将来の市町村行政を担う中堅職員を対象に「市町村職員海外派遣研修」を実施しております。

今年度の海外研修は、昨年度に引き続き、市職員向けと町村職員向けの2コースを設定し、「農業」、「観光」「子育て」を研修テーマとした視察をカナダにおいて、6月17日から24日まで、6月24日から7月1日までのそれぞれ8日間で実施しました。

今年度も2コースを設定しましたが、視察は同じカナダで行い、テーマについても同じであったことから、それぞれのコースが視察した内容について情報共有・情報交換をし、各テーマについて合同で報告書を作成することとしました。

参加した27名の研修生は、いずれも意欲的に研修に取り組み、視察先における熱心な調査・研究活動の結果、素晴らしい研修成果が報告されております。

これらの経験は、必ずや今後の市町村行政に活かされるものと確信しております。

なお、研修の成果を取りまとめたこの報告書が、県内市町村の振興発展の一助となれば幸いに存じます。

終わりに、今回の海外派遣研修の実施に際し、市町村長及び関係各位には特段のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

平成30年11月

公益財団法人千葉県市町村振興協会
理 事 長 清 水 聖 士

目 次

1 団 員 名 簿	1
2 日 程 表	9
3 ルートマップ	11
4 視察レポート		
1班 農 業	15
2班 観 光	49
3班 子 育 て	79
5 活動記録	115
6 編集後記	117

団 員 名 簿

(A コー ス)



【団 長】



鎗 田 淳
事 務 局

次長兼振興課長



荒 井 紀 子
千 葉 市
生活文化スポーツ部
男女共同参画課

主 査



谷 井 孝 充
船 橋 市
福祉サービス部
生活支援課
係 長



伊 藤 義 匡
木 更 津 市
総 務 部 総 務 課
主 任 主 事



渡 辺 真 之
松 戸 市
経 済 振 興 部
商 工 振 興 課
主 査



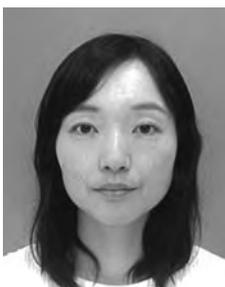
石 井 三 夫
茂 原 市
総 務 部 管 財 課
主 査



伊 藤 真 理 子
成 田 市
市民生活部市民課
主 幹



飯 笹 浩 一
旭 市
総務課庶務行政班
主 査



中 沢 愛 子
柏 市
地 域 保 健 課
主 事



森 下 幸 司
市 原 市
都市部建築指導課
技 師



小 泉 満
 鴨 川 市
 水 道 局
 次 長



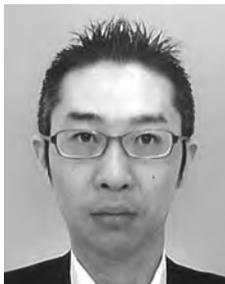
木 村 真喜子
 鎌 ヶ 谷 市
 健 康 福 祉 部
 こ ども 支 援 課
 副主幹（事）給付係長



鈴 木 淳
 君 津 市
 保 健 福 祉 部 子 育 て
 支 援 課 人 見 保 育 園
 主 任 管 理 栄 養 士



清 田 和 広
 印 西 市
 総 務 部 防 災 課
 主 査



高 井 慎ノ介
 事 務 局
 総 務 課
 主 査



島 田 栄 子
 （ 添 乗 員 ）
 （株）近畿日本ツーリスト
 首 都 圏

団 員 名 簿

(B コ ー ス)



【団 長】



石 橋 建 二
事 務 局

消防共済担当課長



中 山 聡
酒々井町

生涯学習課
副 主 査



猪 瀬 泰 志
栄 町

産 業 課
班 長



澤 田 達 也
神 崎 町

町 民 課
係 長



内 藤 裕 美
多 古 町

税 務 課
主 査 補



加 藤 明
東 庄 町
まちづくり課
産 業 振 興 係
主 査



山 田 昌 之
九 十 九 里 町

総 務 課
副 主 査



加 瀬 淳 一
横 芝 光 町

住 民 課
主 幹



土 屋 博 嗣
一 宮 町

福 祉 健 康 課
主 査 補



佐 瀬 友 基
長 生 村

産 業 課
主 事



森 晃 子
白 子 町
総 務 課
主 査



佐 藤 幹 宏
長 柄 町
企 画 財 政 課
主査兼広報統計係長



山 本 和 人
長 南 町
議 会 事 務 局
書記 (主査)



石 井 学
御 宿 町
総 務 課
主 査



山 田 朋 和
鋸 南 町
保 健 福 祉 課
副 主 査



佐 藤 仁 美
事 務 局
振 興 課
副 主 査



清 水 久 栄
(添 乗 員)

(株)近畿日本ツーリスト
首 都 圏

市町村職員海外派遣研修 日程表（Aコース）

日次	月日	地名	現地時間	交通機関	日程
1	6/17 (日)	成田空港 成田空港 発 バンクーバー空港着	13:50 16:50 9:25	AC-004 専用バス	成田空港第1ターミナル南ウイング集合 空路、バンクーバーへ 到着後、専用バスで異動 バンクーバー市内視察 【バンクーバー泊】
2	6/18 (月)	バンクーバー (バンクーバー市内)	終日	専用バス	①子育て【サウスバンクーバーネイバーフッドハウス】 ②子育て【ボーイズ&ガールズクラブBC】 【バンクーバー泊】
3	6/19 (火)	サレー (バンクーバー近郊) バンクーバー	終日	専用バス	③農業【BCベジタブルマーケティングコミッション】 バンクーバー市内視察 【バンクーバー泊】
4	6/20 (水)	バンクーバー バンクーバー空港発 トロント空港着	11:00 18:18	専用バス AC-112 送迎バス	ホテル発 空路、トロントへ 到着後、ホテルへ 【トロント泊】
5	6/21 (木)	トロント	終日	専用バス	トロント市内視察 ④農業【トロントファーマーズネットワーク】 【トロント泊】
6	6/22 (金)	ハミルトン (トロント近郊) ナイアガラ	終日	専用バス 各自	⑤観光【ハミルトン観光局】 一路、ナイアガラへ 到着後、グループタウンリサーチ 【ナイアガラ泊】
7	6/23 (土)	ナイアガラ トロント空港発	8:30 13:40	専用バス AC-001	ホテル発 空路、日本へ 【機内泊】
8	6/24 (日)	羽田空港着	15:35		到着

※利用航空会社：AC＝エア・カナダ

市町村職員海外派遣研修 日程表（Bコース）

日次	月日	地名	現地時間	交通機関	日 程
1	6/24 (日)	成田空港 成田空港 発 バンクーバー空港着	13:50 16:50 9:25	AC-004 専用バス	成田空港第1ターミナル南ウイング集合 空路、バンクーバーへ 到着後、専用バスで異動 バンクーバー市内視察 【バンクーバー泊】
2	6/25 (月)	バンクーバー (バンクーバー市内) サレー (バンクーバー近郊)	終日	専用バス	①子育て【ウエストサイドファミリープレイス】 ②観光【サレー等民泊ホームステイ組織】 【バンクーバー泊】
3	6/26 (火)	バンクーバー (バンクーバー近郊) バンクーバー	終日	専用バス	③農業【ウエストハム・アイランドハーブ農場】 バンクーバー市内視察 【バンクーバー泊】
4	6/27 (水)	バンクーバー バンクーバー空港発 トロント空港着	11:00 18:18	専用バス AC-112 送迎バス	ホテル発 空路、トロントへ 到着後、ホテルへ 【トロント泊】
5	6/28 (木)	セントジェイコブス (トロント近郊) トロント	終日	専用バス	④観光【ツーリズムセントジェイコブス】 トロント市内視察 【トロント泊】
6	6/29 (金)	トロント ナイアガラ	終日	専用バス 各自	⑤子育て【シュタイナートロントスクール】 一路、ナイアガラへ 到着後、グループタウンリサーチ 【ナイアガラ泊】
7	6/30 (土)	ナイアガラ トロント空港発	8:30 13:40	専用バス AC-001	ホテル発 空路、日本へ 【機内泊】
8	7/1 (日)	羽田空港着	15:35		到着

※利用航空会社：AC=エア・カナダ

ルートマップ



視 察 レ ポ ー ト

研修テーマ 農 業

【担当者】

A コース：小泉 満／清田 和広／飯笹 浩一／伊藤 義匡

B コース：猪瀬 泰志／加藤 明／内藤 裕美／土屋 博嗣

【視察先・視察日】

- 1 BC ベジタブルマーケティングコミッション
(A コース・6月19日)
- 2 トロントファーマーズマーケットネットワーク
(A コース・6月21日)
- 3 ウェストハム・アイランドハーブ農場 (B コース・6月26日)

1班 カナダの農業

1. 国及び都市の概要

カナダは、広大な国土を誇る農業国である。国土面積は998万4,670 km²とロシア連邦に次ぐ世界第2位で、日本の国土面積の約2.7倍に達する。

また、カナダの地理的特徴はその多様性にあり、アメリカ合衆国の国境に近い中央部では農業に適した肥沃な平原地帯が広がる一方で、西部にはロッキー山脈などの広大な山岳地帯がそびえ立ち、また五大湖などの湖や河川も全域で数多く見られ、最北には北極ツンドラへと続く原生林も広がるなど、地域によってその様相は大きく異なっている。

その一方で、カナダの総人口は、約3,515万人（2016年現在）と他の大国と比べて非常に少なく、日本の総人口（約1億2,693万人（2016年現在））と比べても4分の1程度にとどまる。

また、カナダは、アメリカ合衆国と同様に独立主権を有する州を構成単位とする連邦国家であり、10の州と3つの準州から構成される。

カナダを地域ごとに分けると、太平洋岸、平原州、中央カナダ、大西洋岸、北部に大別される。



カナダの地域分類

今回の視察先であるバンクーバーは、太平洋岸に位置するブリティッシュ・コロンビア州（BC州）に属し、カナダの西の玄関口として親しまれている。カナダ本土とバンクーバー島に挟まれたジョージア海峡に面して発展した港湾都市である。街のすぐ近くに山並みが迫り、近代的なビルの合間に緑の公園が顔を覗かせる。トロント、モントリオールに続くカナダ第3の規模をもつ大都市でありながら、海と山、そして森と、自然を身近に感じられる環境は、「世界で最も住みやすい都市」と呼ばれる。博物館や美術館、広大な公園、四季折々の花が咲くガーデンに植物園と、観光スポットも多く、2010年には冬季オリンピックを開催し、国際的な知名度も更に上昇した。

人口約64万人、面積114.71km²、言語は英語、フランス語で、日本との時差は17時間である。夏秋は涼しく、曇りや雨の日は多いが、雪は数回降る程度で厳しい寒さにはならない。

また、トロントは中央カナダに位置するオンタリオ州の州都にしてカナダ最大の街である。カナダの東の玄関口でもあり、ナイアガラの滝やメープル街道の拠点としても知られている。街の名前は、インディアンのヒューロン族の言葉、「トランテン（人の集まる場所）」に由来し、街の南には五大湖のひとつ、オンタリオ湖があり、対岸はアメリカのニューヨーク州である。現在トロントで暮らす移民の数は人口の約半数を占め、コミュニティ同士お互いに尊重しながら暮らしている。トロントに80以上もあるというエスニックタウンでは、各国の習慣や文化を感じることが出来る。ミュージカルやオペラ、バレエなど、大都市ならではのエンターテインメントの他に、様々なスポーツのプロチームが本拠を構え活動している。

人口約260万人、面積630.18km²、言語は英語、フランス語で日本との時差は14時間である。四季があり温暖な気候で、冬の気温は15℃から16℃程度である。夏は北から乾燥した熱風が吹き込み、気温が40℃になることもある。

2. カナダの農業の概要

カナダは、広大な国土を有するものの、そのほとんどが森林、湖沼、山岳等であり、国土に占める農用地面積の割合はわずか6%である。また、北部は寒冷な気候で農業生産に適していない。それでもアメリカ合衆国との国境付近を中心に6,000万ha以上の農用地を有している。

小麦、大麦、とうもろこし等の穀物、菜種のほか、畜産物の生産が盛んであり、特に菜種は世界第1位の生産量である。また、農用地の約80%を平原州であるアルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州が占めており、これらの州で小麦、大麦、菜種の大部分が生産されている。

農地の状況（2014年）

（単位：万 ha、％）

	カナダ		日本	
	面積	比率	面積	比率
国土全体	99,847	100.0	3,780	100.0
農用地	6,526	6.5	452	12.0
耕地（除く永年作物）	4,602	4.6	422	11.2
永年作物地	464	0.5	30	0.8
永年採草・放牧地	1,460	1.5	-	-

資料：FAO 統計

農林水産業の地位（2015年）

（単位：億 US ドル、％）

	カナダ		日本	
	名目額	GDP 比(%)	名目額	GDP 比(%)
国内総生産 (GDP)	15,528	-	43,831	-
うち農林水産業	260	1.7	520	1.2
1人当たり GDP (US ドル)	43,206		34,629	

資料：国連統計

カナダの農産物を輸出競争力の有無で3つのグループに分けると、次のようになる。

第1に、輸出競争力がある農産物で、穀物、油糧種子、生きた家畜、牛肉、豚肉、ジャガイモである。

第2に、国内市場中心に自給している農産物で、牛乳、乳製品、鶏卵、鶏肉である。

第3に、輸出競争力がない、つまり輸入依存度が高い農産物で、果実、野菜、コーヒー、茶などである。

カナダは、穀物、油糧種子、食肉などを大量に輸出しているが、その一方で保護している農産物もある。牛乳、鶏卵、鶏肉などは供給管理政策によって生産者価格を安定させ、高率関税で輸出を制限している。また、カナダの気候条件は厳しく、作物収量が不安定になりがちなため、農業経営の安定化

を図るために作物保険の導入なども推し進めて生産者の後押しをしている。

カナダでは、近年、大規模な農業経営への生産の集中が進み、他方で、中小規模の経営は離農や兼業化の傾向が強い。経営者の年齢構成においても、日本と同じく、高齢化の波が押し寄せており、農業経営者の平均年齢は、ここ15年間のうちに5歳程度上昇している。それらの状況を鑑み、連邦と州が共同で農業生産者を様々な形でバックアップしているのが実情である。

そのような中、近年、カナダ農業の中で、注目すべき変化として、園芸作物（果実・野菜・施設園芸）の占める比率は農業全体の中では小さいが、健康志向の高まりを受けてブルーベリーや施設園芸の温室野菜（パプリカ、トマト、キュウリ）などの輸出が拡大している。これらの品は、アメリカ合衆国だけでなく、日本などにも輸出されており、今後も期待されている。

3. 調査概要

(1) BCベジタブルマーケティングコミッション

担当

鴨川市	水道局	小泉 満	(班長)
印西市	防災課	清田 和広	(写真責任者)
旭市	総務課	飯笹 浩一	(記録責任者)
木更津市	総務課	伊藤 義匡	(編集責任者)

訪問日

平成30年6月19日(火)

訪問先

カナダ(バンクーバー近郊 サレー)
「BCベジタブルマーケティングコミッション」

面会者

アンドレ ソリモシ氏(エグゼクティブディレクター)



アンドレ氏とBCベジタブルマーケティングコミッションの事務所にて

3-1-1. はじめに

BC ベジタブルマーケティングコミッションは、BC 州産の野菜の輸出を含むマーケティングを促進するための組織である。同州の生産者や協会を代表し、同州の自然作物マーケティング法とその規則に則り、トマト、パプリカ、キュウリ等のハウス栽培野菜をはじめ、豆類、トウモロコシ、ブロッコリー、芽キャベツ、カリフラワー、ジャガイモ、ニンジンなどのマーケティング活動を行う。

3-1-2. BC ベジタブルマーケティングコミッションについて

BC ベジタブルマーケティングコミッションは、生産や輸出等に係る規制機関である。1934年に連邦政府が作物の生産管理に関するマーケティング法を制定し、この法律により、BC 州では穀物以外の作物の生産管理を州のコミッションが執り行っている。

製品の販売促進や価格、生産量をコントロールし、生産量のコントロールについては、コミッションに参加している農家の70%の合意を得ることで、規制を設けることが出来る。規制の対象は温室栽培のトマト、キュウリや露地栽培のジャガイモ、ニンジン、キャベツ、カブ、タマネギなどである。

なお、BC ファームインダストリー・レビューボードという審査会があり、規制等に不服がある場合は、このレビューボードを通じて意見することが出来る。

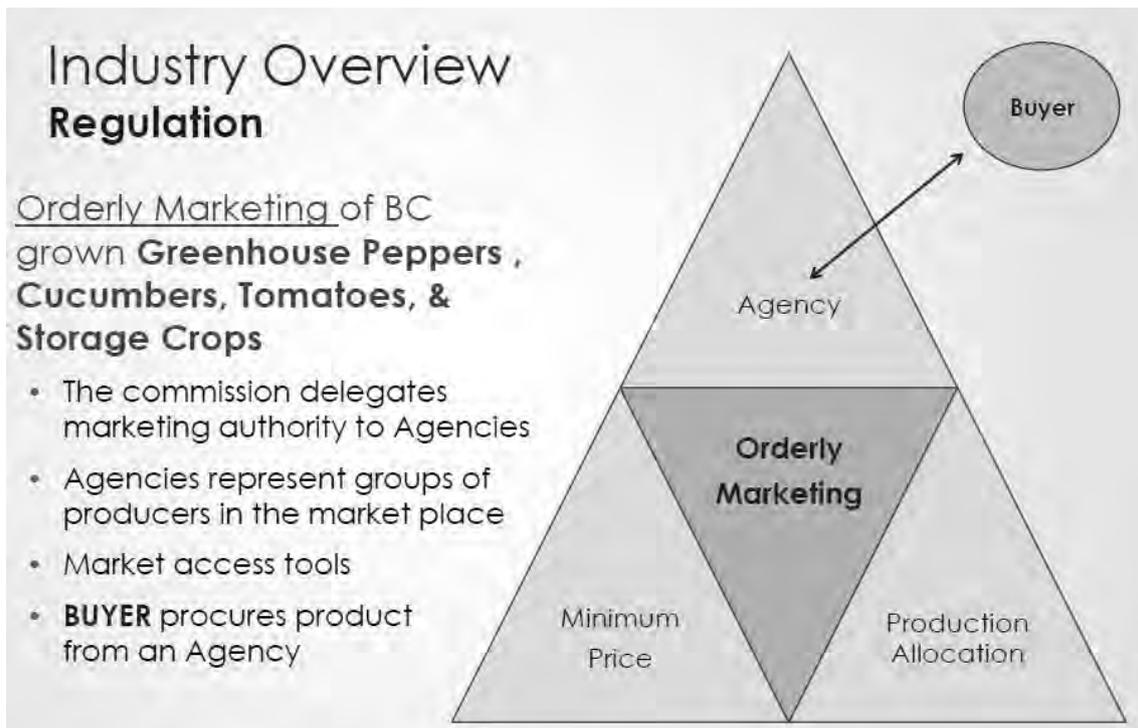
コミッションには7つの代理店が存在し、農家はその代理店を通じて農作物を輸出し、この代理店のブランドで販売している。このうち5つの代理店がパプリカなどの野菜を日本に輸出している。



コミッションに参加している代理店のロゴ

次の図は、コミッションがコントロールする流通の仕組みを図で表したものである。このコミッションは、代理店を通じて買い手に商品が渡るまでの、価

格調整、規制の策定など全てに関わっている。BC州では地産地消を推奨しており、根菜類の96%が地元で消費されている。これらについては、農家の収入を安定させるため、最低価格の設定を行っている。一方、温室栽培で生産された農作物の70%から80%は輸出されており、この場合、最低価格の設定はない。



コミッションがコントロールする流通の仕組み

3-1-3. 地域農業の概要

近年、BC州においては温室栽培に力を入れている。

温室は、「デルタ地区」や「サレー地区」に多く立地している。温室栽培は、特に採光が必要不可欠であり、いずれも気象条件が良好な地域である。

なお、「デルタ地区」と「フレーザーバレー」においては、露地物の根菜類も多く栽培されている。これらの地域は、砂が多く根菜類の栽培に適した土壌であり、また、作物の成長が早いということが理由として挙げられる。

件数としては、温室農家が約60件で、同じような数で根菜類の農家も存在している。なお、温室の総面積の60%は「メトロバンクーバー」と隣の「フレーザーバレー」に位置し、また、およそ64%が「メトロバンクーバー」の都市である「デルタ地区」と「サレー地区」に位置している。



メトロバンクーバー位置図

上記の地図は、「メトロバンクーバー」を表したものであるが、かつてはもっと内陸部やバンクーバー島でも根菜類が盛んに栽培されていた。農家人口の高齢化に伴い、それらは次第に下火となり、現在は「メトロバンクーバー」や「フレーザーバレー」において、主に栽培されている。

BC州といっても、日本の2.7倍の面積があるが、北部になると、もっと緯度が高くなるので、気候的にも農業に合わず、内陸部については、気候的には合っても、農業人口、特に若者が減っており、都心部からも離れているということで、現在最も盛んに温室や根菜類の栽培が行われているのがこれらの地域ということになる。

2016年の温室栽培の生産額は、約3億カナダドルであり、近年はほぼ同額で推移している。

2017年の作付面積は約807エーカー（約330ha）で、そのうちの約8割をパプリカとトマトが占めている。

温室栽培の多くを占めるパプリカの栽培周期については、10月から11月まで繁殖専門の温室で小さなパプリカを栽培して苗を作る。

苗が十分成長したら1月の前半に栽培用の温室に移し、収穫は3月から11月までの約9か月間と長期間に亘って行われる。

収穫後の11月から12月は、次の栽培に向けてきれいに清掃するというのが年間の栽培計画となる。



パプリカの栽培周期

2016年のBC州における根菜類の作付面積は、約6,000エーカー（約2,450ha）で、生産額は約5,900万カナダドルである。

作付された作物の多くがジャガイモであり、カナダ国内のスーパーマーケットで目にするジャガイモのほとんどがBC州産といってもよい。



広大なジャガイモ畑



畑の中に立地するポテトチップス工場

3-1-4. ガラス温室について

BC州で多く見られる温室は、ダッチライト型温室と呼ばれる連棟型温室である。施設園芸の先進国であるオランダで開発され、骨材が細く採光性がよい。換気効率を高めるため、一般的に軒高が高いのが大きな特徴である。



温室の外観



軒高が高く採光性がよい

最新のものになればなるほど背が高く、この特徴を生かし、どんどん上に成長するパプリカを栽培する農家が多くなっている（天井が高ければ高いほど収穫量も上がる）。

温室内は、湿度、温度、換気、暖房、日除け等、すべてがコンピュータ制御されている。

特に、暖房は、BC州においては、天然ガスが燃料としてよく使用されており、ボイラーで床に張り巡らされた管をスチームが通り、スチームにより作られた温水を循環させるという手法が用いられ、温水を長時間一定の温度で保つようなタンクも設けてある。

また、畝と畝の間に布設されたスチーム管の上にトローリーを乗せて、収穫などの作業を行うことも可能となっている。

食物の生育に必要な二酸化炭素についても、均等に放出されるようになっており、温室栽培には欠かせないものである。BC州では、「炭素税」という税制があるが、温室栽培をしている農家に対しては優遇制度が設けられている。



二酸化炭素の投与



ココナッツシェルを用いた
水耕栽培

温室内では、土は使わずにココナッツシェルというココナッツの殻を砕いたものを土壌の代わりに使用している。そこに細い管が通り、水と肥料が自動で適切に施されることになっている。

また、近代化された集出荷施設も併設されており、一定の安全基準に基づき認定を受けている。

なお、収穫の時期になると、メキシコとの特別な取り決めにより、メキシ

コから出稼ぎでカナダに来るというプログラムが確立していて、3月から11月までの約9か月間、収穫の仕事をしてメキシコに帰国する。

その際、受け入れ側の農家は、住宅等について責任を持って準備しなければならないという義務が課せられている。



近代化された
パッキングライン①



近代化された
パッキングライン②

なお、GFSI（グローバル・フード・セーフティ・イニシアチブ）で認定されている食の安全についての監査をきちんと受けており、カナダ版 GAP に基づいて食の安全に取り組んでいる。



カナダ版 GAP

●カナダ版 GAP の主な内容

- ・訪問者に対するポリシー
- ・業者に対するトレーニング
- ・施設のメンテナンス
- ・購入する肥料・農薬等やその貯蔵方法
- ・灌漑の水質
- ・機器の維持管理
- ・廃棄物の管理
- ・従業員 の衛生管理
- ・輸送
- ・トレーサビリティ



訪問者に対するポリシー



消毒場所



トレーサビリティのためのバーコード

最大の収穫率と品質を維持するために、栽培の始まりから終わりまですべてにわたり清潔であることが第一である。

収穫が終わった後の作物をすべて抜き、清掃、消毒をして、完全にクリーンになってから次の栽培を始めることが、害虫や病気等の発生を抑制することになる。

ビジターには、防護服を着用のうえ入室してもらい、従業員には手の消毒等を徹底させている。

ペストマネジメントについては、害虫トラップで物理的に害虫を駆除する手法や、自然界の法則に則り、天敵の力をうまく活用（バイオコントロール）する手法を用いて実施している。



防護服を着用した様子



害虫駆除の様子

物理的手法や生物的手法でも駆除が難しい場合は、全体的にはではなく、局部的に殺虫剤を使用する。

ペストマネジメントは、薬品を使用するための登録や、残留農薬のレベルを把握していなければならないなど、基準に準拠していない場合は、農作物を販売することが出来ない等、厳しく規制がされている。

3-1-5. 質疑応答

Q 1

生産調整の話、それから温室の話もあったが、コミッションで生産もしているのか。

A 1

生産しているのは農家の方で、秩序あるマーケティングを促進しているのがこの団体である。

もちろん、密接な関連はあって、我々が報告義務のある理事会は8つの農家の方々に構成されているので、とても関係は深いですが、我々コミッションとして栽培を行っているわけではない。

実際に意思決定をするのは、農家ということになる。我々は事務職。

Q 2

新規参入の障壁は。

A 2

近年、土地の価格が高騰しており、取得は容易ではないが、すでに耕作地を保有している場合は、それほどハードルは高くはない。

Q 3

若者の農家離れは。

A 3

この地域は都会に近いという利点はあるが、若者の農家離れというものは起きている。内陸部の方、本当の田舎には若い人は行きにくいという現状はある。この地域は、何代も続いている農家であるので、農家の方は、結構子沢山の家が多くて、兄弟が何人もいると、そのうちの1人が家業を継いで農業に従事するという事は行われている。理事会にも、3, 4人若い農業従事者が理事として参画している。

内陸部の若者が行きにくい土地については、農地としてではなく、ほかの目的として使われるために転売されるという状況も出ている。

Q 4

BC州の農業のイメージは。

A 4

ここ10年から15年、「地産地消」に重きが置かれていて、BC州では「自分の地域で栽培された物を消費していこう」という取り組みの「100マイルダイエット」が広がりを見せており、我々農業にとって、特に根菜類にはプラスに作用をしていると思う。

また、カナダドルは米ドルと比べて安いという傾向があり、この傾向がもっと顕著に現れると、野菜については輸入するよりも輸出する方がはるかに多いので、業界にとってはプラスに作用する。

Q 5

行政からの補助は。

A 5

政府や自治体から農家に対する補助はないが、炭素税の優遇制度が設けられている。

Q 6

休耕地の問題は。

A 6

もちろん課題として存在する。バンクーバー島などで見られ、最近はどうも改善できないような状況にある。何年か経って、他の作物を作らなければいけなくなった時に、かつては収益が上がる作物を作るということであったが、それがうまく回っていないので、ただカバークロップ（作物を作らない期間に土壌浸食の防止を目的に作付けされる植物）で売りはしないが休耕地としてそのままにしておくということが最近は行われている。

その理由としては、ブロッコリーなどを栽培して、生のまま売るというのは非常に限られていて、やはり冷凍等のプロセスが必要となってくるが、そういうインフラが整っていない。

かつては加工業者が7社あったが、今は1社しかない状況にある。

Q 7

温室栽培でパプリカ栽培が5割を占めているが、需要が高いからか。

A 7

需要が高いというのもあるが、天候等が栽培に適している。それに伴ってパプリカを良好に栽培できる農家が増えている。

もうひとつの理由としては、トマトの方が病害虫のリスクが高いということで、農家自身が病害虫に強いパプリカ栽培を選ぶという傾向もある。

なお、パプリカとトマトを両方栽培している農家はない。

Q 8

この地域で栽培していない作物で、今後チャレンジしてみたいものは。

A 8

パプリカでも品種の違うもの。また、この地域では、イチゴの温室栽培を行っていない。現在は露地栽培に限られている。ナスの作付けも今後取り組んでいきたい。

また、隣のアルバータ州で行っているが、温室のレタス、バターレタス。また、マイクログリーン、小さなパプリカなども人気が高い。

(2) トロントファーマーズマーケットネットワーク
担当

鴨川市 水道局	小泉 満 (班長)
印西市 防災課	清田 和広 (写真責任者)
旭市 総務課	飯笹 浩一 (記録責任者)
木更津市 総務課	伊藤 義匡 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月21日 (木)

訪問先

カナダ (トロント)

「ダファリングローブ オーガニック ファーマーズマーケット」

面会者

アン フリーマン氏 (マーケットコーディネーター)



アン氏とファーマーズマーケットにて

3-2-1. はじめに

トロントファーマーズマーケットネットワークは、トロント周辺のファーマーズマーケットを束ねる団体である。市内のファーマーズマーケットにはそれぞれ特徴があり、それぞれに運営されているが、持続可能な農業と健全な地域を構築するという共通の目的に焦点をおき活動している。地産地消の関心が高まる中、地元の安全で長距離輸送されていない環境に優しい食品を選択する人々が増加し、同ネットワークに参加しているトロント周辺のファーマーズマーケットは週末だけではなく、平日開催や通年開催しているマーケットもある。

3-2-2. トロントファーマーズマーケットについて

ファーマーズマーケットはカナダの各地域で開催されている。オンタリオ州のトロントには、約30か所ものファーマーズマーケットが開催されており、出店数の50%が農家であることがマーケット開催の条件となっているが、農家の販売する野菜以外に、大西洋と太平洋の両海洋から採れる海鮮物の販売や、手芸品なども販売している。



マーケットの風景



野菜を販売する農家

その中で今回視察を行った「ダファリングローブ・オーガニックファーマーズマーケット」は設立15年で、トロント内で初めての有機栽培のファーマーズマーケットである。このファーマーズマーケットは年間を通じて開催されており、通常は屋外での開催だが、冬季は気温が低いため規模を縮小して建物内で開催している。

ダファリングローブ・オーガニックファーマーズマーケットで販売されている商品の約70%は農作物である。残りの30%は加工品やパンなどを販売している。このファーマーズマーケットで販売しているパンの材料は、主に有機栽培の農家から購入したものを使用しており、開催場所の敷地内にある釜で焼いて、年間を通して販売している。



パンの焼き釜



パンの販売風景

このファーマーズマーケットで販売されている野菜は、グリーンハウスや露地で生産されたものであり、いずれも有機栽培されたものである。また、販売されているこれらの野菜のほとんどは、昨日か今朝収穫されたものであり、鮮度を保つため保冷する前に冷水で洗浄し、非常に鮮度の良い状態で販売されている。このように栽培方法や鮮度に拘ることで、大手スーパーとの差別化を図っている。

3-2-3. 質疑応答

Q 1

組織の発足理由や組織の魅力は何か。

A 1

有機栽培を行っている農家の人たちの、「消費者に直接販売したい」というニーズに応えたかったことと、中間業者がないことで経済的にもプラスに作用すると考えたため。また、たくさんの人が集まる事で、宣伝等の手伝いも出来ると考えた。

Q 2

どのような農家が加入しているのか。

A 2

マーケットを始めた当時、オンタリオ州の農業に従事している人の平均年齢は50歳を超えていた。しかし、有機栽培が流行り始めてからは、若い人が農業に従事している傾向にある。

なお、加入者の大多数は小規模な農家である。

Q 3

行政からの補助金等の支援はあるか。また、行政との接点はあるか。

A 3

マーケットを始めた当時は、特に規則等はなかったが、現在は規模が大きくなったため、毎年行政に手数料を支払い、許可を得る必要がある。

また、行政からの直接的な支援はないが、「グリーンベルトファーマーズマーケット」という組織の一員であり、こちらの組織は行政からの支援や補助を受けている。そういった意味では間接的な支援を受けている。

Q 4

どのような農作物が売られているのか。また、人気のある農作物は何か。

A 4

野菜類が一番多く売れており人気がある。果物についてはりんごが収穫できる。それ以外の果物については、寒い地域であることから、オンタリオ州の一番南にあるナイアガラ地域に行かないと果物は育たないため、販売できる果物は非常に少ない。

Q 5

出店者は販売ルートマーケット以外に持っているのか。

A 5

このマーケットについては、週1回の木曜日しか開催されていないが、各地に他のマーケットがあるので、各農家の生産量にもよるが、週3回から7回くらいのペースで色々なマーケットを回る農家もいる。

それ以外に、お店やレストランなどに販売する農家や、直接消費者に配達するような販売方法も行っている。

Q 6

マーケットへの参加条件は何か。

A 6

出店費用として、毎週（毎回）35カナダドル程度の費用を払う必要がある。この組織自体はNPO団体であるため、こちらの費用については利益ではなく運営に必要な経費として頂いている。

Q 7

スタッフとして働いて嬉しい事や辛いと思った事は何か。

A 7

一番嬉しい事は、お客様に直接販売が出来ること。一番辛い、難しいと思ったことは、屋外で開催する際の天候である。寒い日、暑い日、嵐の日の開催もあるため。

Q 8

この組織のスタッフとして働くための必要な資格等はあるか。

A 8

設立当時は特に必要としていなかったが、最近では必要に応じてカリキュラムを受講するなど資格を必要としている。

Q 9

事業の周知はどのように行っているのか。

A 9

一番効果があるのは、ニューズペーパーのようなものを毎週インターネットで発行している。他にも、インスタグラムやフェイスブックなどの SNS を利用している。

Q 10

農家及びスタッフの男女比はどの位か。

A 10

農家に関しては、80%が男性、20%が女性である。しかし、マーケットを運営する人に関しては、90%が女性である。

Q 11

このマーケットの開催時間はどのくらいか。

A 11

毎週木曜日の午後3時から午後7時まで開催している。学校や仕事をしている時間ではあるが、終了後に立ち寄れる時間でもあるため、このくらいの時間が丁度良い。もちろん、販売する曜日としては土曜日が一番良いが、農家の人の負担にもなるので、平日のこの時間に収まった。

Q 12

日本では15年ほど前から「オーガニック」という言葉に関心が持たれ始めたが、カナダではどうか。

A 12

カナダでも15年前からオーガニックについての関心が持たれ始めた。近隣の大きなショッピングモールなどには、有機栽培された野菜は販売されていないため、このマーケットで販売しようという考えになった。

Q 13

組織発足の当時は、周りの方になかなか理解を得られなかったのではないかと。また、イベントに参加してもらうようにどういう努力をしてきたのか。

A 1 3

そのとおり、なかなか理解を得られなかった。15年前はホームページなどもなく、誰が何をやっているという情報を得るのも難しい状況だった。

当初は、3件の有機栽培の農家に賛同を得られたので、まずはそこから始め、その農家の繋がりを経て現在に至る。今ではマッチメイクをしてくれる組織が存在している。

Q 1 4

農家の方々はテントを張って販売しているが、場所は決まっているのか。

A 1 4

基本的には同じ場所に出店して頂いている。これは購入者の分かり易さを考慮してのことである。

場所の決め方については、重たいものを取り扱う店舗は車への積み込み等を考えて道路付近に配置し、調理で電気を使用する店舗は建物に近い場所に配置する等の配慮をしている。

Q 1 5

この周辺は都市部であるが、何処で耕作しているのか。

A 1 5

トロントは面積の大きな街であるが、ここから45分から2時間くらいの範囲の郊外からの出店である。地域としてはトロント北部、西部からの出店もある。果物は温暖なナイアガラ地域からの出店である。

Q 1 6

後継者や若者を増やすための工夫はあるか。

A 1 6

小麦等の穀物を扱う大規模農家には確かに後継者問題はあるが、小規模農家はそんなに都市部から離れたところに住まなくてもよく、自分の作った作物を直接消費者に販売できる。このように満足感を得られるということで、若い人に受けが良い。

(3) カナダの小規模家族経営農業

担当

栄町	産業課	猪瀬	泰志 (班長)
多古町	税務課	内藤	裕美 (記録責任者)
東庄町	まちづくり課	加藤	明 (写真責任者)
一宮町	福祉健康課	土屋	博嗣 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月26日 (火)

訪問先

カナダ (バンクーバー)
「ウェストハム・アイランドハーブ農場」

面会者

シャロン・エリス氏

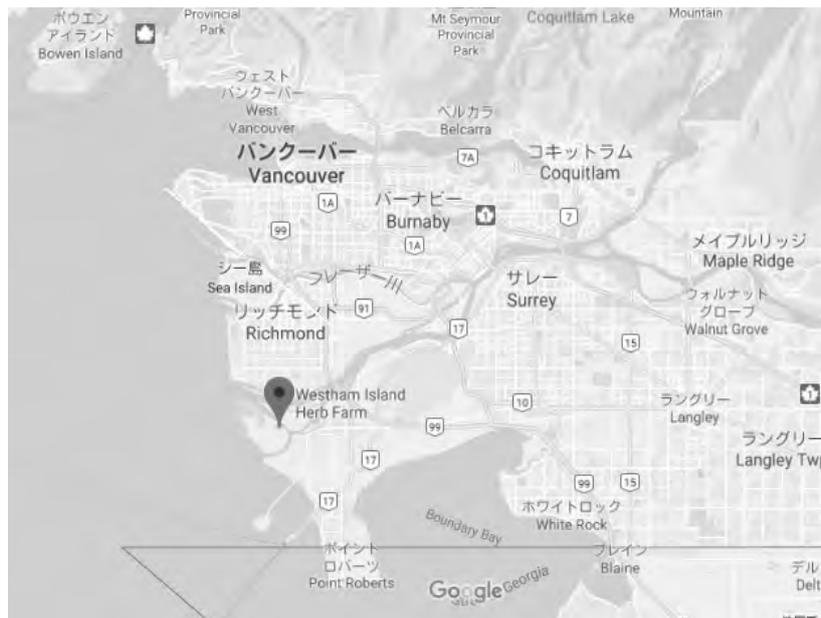


ウェストハム・アイランドハーブ農場入口にて
愛用のトラクターに乗ってシャロン親子と

3-3-1. ウェストハム・アイランドハーブ農場の概要

①地理

本農場は BC 州バンクーバーの南部に位置するウェストハム島の静かな田舎町にある。この地域はジョージア海峡とフレーザー川に囲まれたデルタ地帯となっている。土地としては、ロッキー山脈のミネラル豊富な雪解け水の恩恵を受けた肥沃な土により形成されており、カナダの中でも最良の農地のひとつとなっている。



バンクーバーのダウンタウンからは車で35分

②歴史

祖先は英国よりオンタリオ州トロントへ移住し、1880年にバンクーバーへ渡って来た。1916年より家族経営農業を始め、1994年にウェストハム・アイランドハーブ農場として開業した。この辺りの農場はみんな親戚にあたる。シャロン父は78歳。幼少期よりこの農場で仕事をしているが現在は、後継者として娘2人が主に農場を経営している。

農場の理念は、「農業は町に住んでいると解らないものなので、なるべく多くの方に農場に来て貰い農業の重要性を知って貰う」というところにある。秋にはパンプキン畑を解放しハロウィンイベントを開催しており、家庭用に大きなカボチャを買っていく家庭もある。また、BC州のファミリーレストランチェーンの一つであるホワイトスポットの契約農家としてジャガイモを出荷している。



小規模農業ながら広大な農地を誇るウェストハム・アイランドハーブ農場

③施設

BC 州では500エーカー以上（4,046 m²/1エーカー）で大規模農家にあたるため、138エーカーしかないこの農場は小規模農家になる。水利は井戸水を使わずに上水やフレーザー川の水を使っている。

農場には1880年代に作られた納屋があり、冬の間は牛が暮らし、牛糞を次の年の肥料として使っている。また、別に大きな倉庫があり、そこには普段ジャガイモを貯蔵しているが、視察時は6月で飼料用の干し草を貯蔵している状態だった。バンクーバーでは、未だかなりの農家が馬を持っているため馬用の飼料も生産している。



築130年の雰囲気のある巨大納屋

倉庫にはベイルラガーと呼ばれる干し草刈り機があり、これはベイル（干し草をキューブ型に固めたもの）を拾って積み重ねる機械である。処理能力は1回に140ベイル。78歳と80歳の二人の労働力で1日に1,500ベイルを処理することが出来る。北海道にあるようなビニールで巻くものはホールクロップと言ってこの辺りでもよく見られるが、違いは、円筒形はビニールのカバーを掛けることによりその中で発酵するため牛の飼料になる。ここでもその飼料を使うこともある。四角く固められたものは馬の飼料になる。



貴重な労働力となる高性能ベイルラガー

④作物

多種類のレタス、ニンジン、ピート、トマト、パプリカ、アーティチョーク、カボチャ、ジャガイモ、タマネギ、セロリなど、多種多様な野菜を作っている。大麦、ジャガイモ、ヘイ用（干し草）も植えている。果物はベリー類のイチゴのみで、ラズベリーはここでは栽培していない。

近辺にイチゴの苗木を栽培しているところはなく、清潔な苗木を米国カリフォルニアから購入している。作付けから収穫まで1年かかる。6月の初めから1カ月間イチゴ摘みができる。

カボチャはうちきくりという日本の品種を作っており、黄色がかった果肉でスープにするととても美味しく、この農場はカボチャが有名で一番の主力商品となっている。

デルタ地域の栽培野菜と収穫期							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
豆							
ブルーベリー							
キャベツ							
トウモロコシ							
温室野菜 (キュウリ・レタス・トマト)							
クランベリー							
ジャガイモ							
カボチャ							
ラズベリー							
サイレージ							
スカッシュ							
イチゴ							

デルタ地域の栽培野菜と収穫期

農場の一部の区画をオーガニックエリアにし、肥料や農薬など規制された中で栽培している。絶え間なく収穫ができるように太いタイプのネギ、タマネギ、ビート、豆類と栽培している。ビニールは100%コンポストバルとなっている。オーガニックは州制度どおりの基準でやっているが、正式な認定は取っておらず自称オーガニックとなっている。その理由として、小売業者等に卸す場合には正式に必要なだが、ここでは個人の顧客が生産者を知ってくれてここで買ってくれることに満足しているので、認定が今のところ必要ない。州基準では基準どおり3年間続けると該当し、今後は州ごとに異なっている基準が連邦統一基準(カナダ版)になる可能性がある。州ごとの差がなくなるという点では良いが、そうなる現状のやり方ではこの農場は非該当になる。

去年買ったトラクターはクボタの日本産で、360万円する。これを購入するのに20年かかったが、世界のクボタブランドであり日本製は耐久性がよく半永久的に使えるため、決して高くない投資だと語っていた。



様々な品種の野菜が栽培されている広大な圃場

⑤取組

消費者とのパートナーシップとして CSA（Community Supported Agriculture）というプログラムを実施している。地域で支えられた農業という意味で、6月の中旬に登録をすると収穫された作物が箱に詰められ、20週にわたり提供される仕組みである。箱のサイズは家族の構成員に合わせて大小の2サイズ（大600ドル、小400ドル）選べる。その箱には規格外の作物も多少入るが、規格外の殆どは農場の直売所で売れてしまう。作物の入った箱は農場へ足を運んで取りに来て貰う方式で、中身についてはその時々で収穫されたものの中から農場側で決める。このプログラムはほとんど消費者と農場のパートナーシップのもとに行われており、例えば豆が豊作になったらそれを地域の皆で共有しようという意味もある。農場としては年初の収入がない時期に、申込金としてお金が入ることにより年間を通して安定した収入を得ることが出来、また、消費者にとってもこの箱は地元の野菜の福袋といった何が入っているかお楽しみというものになっているなど互いに利点がある。全ての方が満足できるといったものではないと思うが、現在は1週間に35箱を取り扱っている。年によって大きい箱が多かったり少なかったりとあるが、今年は小さい箱が多めに出ている。もう一つの利点は、晴れた日には皆、放っておいても来てくれるが、通常雨の日は誰も来ないので、箱があると来なければならない意識が強く、雨の日でもよく農場へ足を運んでくれる。



季節折々の野菜が入る大きいサイズのボックス

秋になると小学生等が遠足で大勢来てくれる。その頃には、カボチャがオレンジ色に大きく成長しているため、それを収穫しつつ農業の大切さをここでも学んで貰うということを行っている。

9月にも農業について学んで貰うジャガイモ掘りのイベントがあり、その時は皆にフォークを持参して貰い、自分達で収穫して貰っている。このイベントには公共交通手段がないため、お客は自家用車で来場して貰わなければならないが、1日当たり4,000人ももの来場者がある。収穫以外にもトラクターとワゴンに乗車して農場を回るヘイライドというイベントも行っており好評を得ている。また、農場に設置されたテントの中には州立大学の農学部のブースや他の農業団体なども出店し、それぞれが農業の重要さや大切さを伝えている。イベントの周知は新聞やメディア、フェイスブックなどで行っている。12年続いているイベントのため、地元の人達としても年間行事となっている。



産直の新鮮な野菜たちが並ぶ併設の直売所

3-3-2. 質疑応答

Q 1

スタッフについて。

A 1

7名から8名のパートタイマーの方を雇っている。この農場自体は5月から10月までがオープンしている時期だが、準備期間があるため、3月から10月までを雇用期間としている。ここでは外国からではなく、地元の方々に労働者としてパートで働いてもらっている。この近くの農場には、一時的にここに滞在して収穫など手伝ってくれる外国の労働力に依存している農場もある。この農場はなるべく地元の方に手伝ってもらっているがどんどんと労働力の確保は困難になっていることは付け加えておかなければいけない。

Q 2

休日について。

A 2

私の休暇は12月から1月の冬の間になる。と言っても休んだらすぐに次の年の注文などをしなければならぬ。そのため、夏の間カナダ人が3週間休暇だとか言っている間もこちらでは仕事をしている。

Q 3

川の水は利用しているのか。

A 3

この道の突き当りのフレーザー川に取水口がある。取水もできるが、雨が多い時には排水もできる。しかし、フレーザー川から取水できるのは8月初旬までとなる。理由としてはそれまでは雪解け水に多くのミネラルが含まれているが、雪解け水が少なくなると、海水の混じる量が多くなり塩分濃度が高くなってしまうため8月下旬からは取水ができなくなってしまう。

Q 4

政府から作物を作る支援があるのか。

A 4

農場を環境的に向上させるなど様々なプログラムはある。これらのプログラムに参加すると30%の資金援助をしてくれるという制度がある。この情報は環境農業団体から得ることができる。しかし、援助を受けるためには自分で申請しなければならない。また、申請するに当たり、有機栽培でなくては認められないプログラムも多く申請に至らないことも多々ある。

Q 5

有害鳥獣の有無、駆除方法について。

A 5

有害鳥獣については、ダックとギース（アヒルとカナダガン）とリス。コヨーテはいるが獣害はあまりなく、比較的鳥害が多い。草や作物の芽を食べてしまうのもあるが、それよりも土を踏み固めてしまうことにより水溜まりができ、作物が腐ってしまう被害がある。特別なプログラムとして、冬の間そういう鳥達のために、大麦などをわざと農場の傍らに残して置き、そこに鳥を集めることにより、作物に被害を与えないようにしている。これは、ワイルドライフトラストと呼ばれるプログラムの一つで、デルタファームランドワイルドライフトラストというところから資金が出ている。冬期にはテントを作り、そこにかもやガンなどが行くように仕向け、どれくらい被害がでるかを確認、ワイルドライフトラストへそのデータを渡している。北部の牧場に行くと同じような被害が鹿で起きているため、同じような方法でリサーチして結果を見ている。

また、船舶でコンテナ輸送は便利だが、外国からの害虫も入ってくることがあり、これらの原因による被害が発生した場合は、政府が追求探究をしてきている。

4. まとめ

(1) BCベジタブルマーケティングコミッション

今回の視察先であるカナダでは、近年、不動産の価格が高騰しており、このことは農業にも少なからず影響があるものと思われる。

カナダにおいても、日本と同様に「高齢化」「若者の農家離れ」「耕作放棄地」等の問題を抱えている。また、大規模経営への生産の集中が進む一方、中小規模の経営は離農や兼業化が進んでいる状況も日本と同様である。

カナダの施設園芸においては、温室面積が665ha（1981年）から2,223ha（2006年）と約3.3倍に拡大している。これは、12ha以上のガラス温室（メガ温室）が出現したことによるものであり、穀物に代表される大量生産品から高付加価値産品へのシフトや生産技術の革新、人工的に管理された環境での効率的な生産（農業の工業化）を意味する。栽培方法や技術的には、日本でも知られているものであるが、カナダの温室水耕栽培は、世界的に見ても施設の非常に優れた、近代農業である。

一方、多くの労働者が必要となり、メキシコからのいわゆる出稼ぎ労働者に依存せざるを得ないという側面も伺えた。

連邦政府が行っている穀物類の生産調整やBC州が行っている穀物以外の生産調整については、連邦政府と州が別々に担当していることになる。今回の研修先のコミッションは、州の法律に準拠し、最低価格の設定も実施している。

日本では、水稻の生産調整が昭和40年代から実施され、平成30年度からは、生産数量目標を国が参考で示し、千葉県は県の農業再生協議会から生産の目安が示され、その後市町村の農業再生協議会へ生産の目安が示される形となっている。日本の国・県・市町村と連携する形の生産調整は、カナダの制度とは異なるが、米価格の高安定を目指すもので、価格保障制度には変わらない。

また、日本の野菜類の最低価格の保障については、市場や買取り業者と個別に契約しない限り存在しない。コミッションによる最低価格保障は、カナダの州制度を活用した良い形である。

(2) トロントファーマーズマーケットネットワーク

ファーマーズマーケットでは、お客は、「新鮮な」「より良い品質」を求めて来るのは勿論であるが、それ以上の価値を見出しているのではないか。ウォルマートなどの量販店と異なって、ファーマーズマーケットには売り手とお客との間に繋がりのようなものがあるのではないかと感じた。

日本でも、ファーマーズマーケットが農産物直売所と考えれば、行われているが、有機栽培にこだわる農家は少ない。

日本の農産物直売所に出荷する場合、年間の販売登録料のほか、野菜の売上げのうち15～25%程度の手数料を支払う制度が一般的であり、このマーケットのように、参加費として毎週35カナダドルを支払うことになると、それ

なりに売上げがなければ、参加は難しいように感じるが、実際は流通の過程で中間業者が存在しないため、収入のアップに繋がっているとのこと。

商品を売る場所は決まっていて、商品の重さや、調理の有無などを考慮した配置としている。これは、日本の行政ではなかなか出てこない発想である。また、大手スーパーで安価な野菜が販売されているながらも、有機野菜を販売し続けられるのは、地域に根付いているからである。

日本における「地産地消」は、食の安全についての問題がクローズアップされたことを契機に徐々に定着していったが、カナダにおいても同様に、「100マイルダイエット」と呼ばれる100マイル以内で収穫、生産されたものを食べようという食運動が展開されている。現在では、この運動がカナダ全土に広がりを見せている。これは、新鮮なものを味わえるだけでなく、輸送にかかるコストも軽減でき、輸送時の二酸化炭素排出量を減らすこともできる環境に優しい食生活であるとのこと。このような利点をどのように消費者に伝え、理解を頂くか。「地産地消」を推し進めていくためのアプローチの仕方として大変興味深く感じた。

(3) カナダの小規模家族経営農業

今回視察した農場は、規模としては日本と同じレベルであり、よく想像する海外の大規模農家ではなかったため、比較しやすい農場であった。家族経営農場として、日本と同様に国や州の支援プログラムはあるが、カナダでは農家として独立し、生産することにプライドを持ち、また生産者の立場であるが農場経営者としての意識が強く、積極的に消費者とかかわりながら自ら販路拡大に努め収益を得る手段を確立しているように感じられた。

日本の農家はあくまでも生産者とする農家が多く、農業を経営する意識は薄い。生産力を上げるために農地の集積事業により専業農家が規模拡大に取り組んではいるがあまり進んでいない。さらに高収益を求め6次産業化に取り組む生産者もあるが成功している事例は少なくこれからの課題である。

行政が制度で守ることも大事だがあくまでも補助的なもので、今後はカナダの生産者のように守られるだけではなく自らがプライドを持ち独立し利益を確保できるような農業経営のマネジメント、魅力ある農業手法を見出していくことが必要である。

5. 参考文献

- ・ 平成30年度市町村職員海外派遣研修事業 事前研修会資料・視察先配付資料
- ・ 農林水産省ホームページ（カナダの農林水産業概況）
- ・ 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 海外研究員レポート（カナダ農業の特徴と穀物生産動向について）

研修テーマ 観 光

【担当者】

A コース：伊藤 真理子／石井 三夫／渡辺 真之／谷井 孝充／森下 幸司

B コース：澤田 達也／森 晃子／山田 昌之／加瀬 淳一／佐瀬 友基

【視察先・視察日】

- | | | |
|---|-----------------|---------------|
| 1 | ハミルトン観光局 | (A コース・6月22日) |
| 2 | サレー等民泊ホームステイ組織 | (B コース・6月25日) |
| 3 | ツーリズム セントジェイコブス | (B コース・6月28日) |

1. はじめに

我が国の GDP は、デフレの影響から伸び悩んでおり、国内の製造業を中心に国際的な競争力が失われていく一方で、まだまだ伸び代のある観光産業の存在及びその波及効果は中小企業・小規模事業者はもちろんのこと、我々地方自治体にとっても大きな可能性を秘めている。

政府は、観光立国を重要施策のひとつに掲げ、2008年（平成20年）に観光庁を設置。国際観光振興の推進により、2013年（平成25年）以降は訪日外国人旅行者数が急増し、2005年（平成17年）は670万人であったが、2015年（平成27年）には1,974万人を数え、出国日本人数を45年ぶりに上回った。2017年（平成29年）には観光立国推進基本計画が策定され「世界が訪れたい日本」を目指して、官民挙げて様々な国際観光振興策が進められ、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催による更なる増加も見込み、2020年までに訪日外国人旅行者数4,000万人を目標としている。

観光は地方創生の切り札として期待が大きいですが、国際観光振興をめぐる課題は多岐にわたっており、特に訪日外国人旅行者の受入環境の整備は急務となっている。また、訪日外国人旅行者の多くは東京や大阪などメジャーな大都市を巡るルートに集中しており、インバウンド増加の効果は地方の観光地にまでは及んでいない。

しかし、近年では観光資源としては気付かれていなかった地域資源を活用した体験型観光（エコツーリズムやグリーンツーリズム）など、それぞれ独自に地域の魅力や特性を活かしたサービスを提供するなど観光の多様化が進んでいることから、潜在的な観光資源の発掘が今後の課題となっている。

今回の視察では、上記の問題意識を念頭に、「ハミルトン観光局」、「サレー等民泊ホームステイ組織」、「ツーリズムセントジェイコブス」の3組織を訪問した。本稿ではこれら行政・民間それぞれの組織の取組を紹介することで我が国及び地方自治体の観光施策への有益な示唆を得たいと考えている。

2. カナダ・ブリティッシュコロンビア州・オンタリオ州の概要

①カナダ

カナダはアメリカ合衆国本土の北、北米大陸の北半分を占め、面積は約998万km²で日本の約27倍。世界第2位の広さの国土を有している。ただし、このうち半分強が森林のうえ、国土の多くは北極圏内であり居住可能な地域は少なく、人口の75%はオタワ、トロント、バンクーバーなど比較的温暖な地域に住んでいる。人口は2016年で約3,520万人であり、多くの移民政策を採っていることから年々増加し、過去5年間（2011～2016年）の人口成長率は年間平均1.0%で、G7先進国において最も高い水準である。民族構成は、英系約25%、北米（カナダ・米国他）24%、ヨーロッパ（英

仏以外) 23%、仏系11%、アジア系11%、先住民その他6%となっている。公用語は英語とフランス語で、言語を話す割合は、英語56%、フランス語23%、その他パンジャービ語、中国語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語などとなっている。

ロッキー山脈やナイアガラの滝など雄大な自然に恵まれていることもあり、世界中から多くの観光客が訪れていて、カナダを訪ねる外国人観光客数は2016年現在で1,997万人と、世界で17番目に多く、年々増加している。



ナイアガラの滝 (オンタリオ州)



バンクーバー郊外のサイプレス・マウンテン。2010年冬季オリンピックでは、フリースタイルスキーなどの競技会場となる (Tourism BC/Insight Photography)

カナダ全体図【外務省 HP より】

②ブリティッシュコロンビア州

ブリティッシュコロンビア州は太平洋に面しカナダ最西部に位置する。

内陸部は豊かな自然が多く、観光産業も盛んであり、ウィスラーなどの山岳リゾートや南部地域の氷河など観光名所が多くある。また、カナダで最も西側に位置することから、アジアからの観光客も多いのが特徴である。

人口は2014年現在、約463万人でオンタリオ州、ケベック州に次ぎ、国内第3位となっている。

海峡を隔てて西にあるバンクーバー島に州都ヴィクトリアがあるが、最大の都市は大陸本土のバンクーバーである。

なお、バンクーバー都市圏の人口は2016年現在、約246万人で、人種構成は白人が約56%、中国系が約18%、南アジア系は約10%となっており、東部に比べ、アジア系の移民が多い地域である。

バンクーバーは、2010年に第21回冬季オリンピックも開催されたこともあって、世界で注目されている街のひとつであり、気候も温暖で自然環境にも優れていることから、「世界で最も住みやすい都市」とも言われている。

③オンタリオ州

オンタリオ州はカナダ中東部に位置し、北は北極海に繋がるハドソン湾に面し、南は五大湖のオンタリオ湖、エリー湖、ヒューロン湖、スペリオル湖に面している州である。

人口は、2014年現在、約1,360万人と国全体の人口の約3分の1がこの州に集まっている。州都はカナダ最大の都市トロントで、首都オタワもオンタリオ州にあることから、カナダの政治・経済の中心となっている。

言語は、2011年現在、英語が約86%、フランス語が約0.3%、英仏両方が約11%、その他2.5%で、フランス語人口は約50万人と、フランス語を公用語としているケベック州に次いで多く、ケベック州に隣接していることと、首都オタワがあることが関係している。

3. 各視察先の調査報告

(1) ハミルトン観光局

担 当

成 田 市 市 民 課	伊藤 真理子 (班 長)
茂 原 市 管 財 課	石井 三夫 (写 真 責 任 者)
松 戸 市 商 工 振 興 課	渡 辺 真 之 (記 録 責 任 者)
船 橋 市 生 活 支 援 課	谷 井 孝 充 (編 集 責 任 者)
市 原 市 建 築 指 導 課	森 下 幸 司

訪 問 日

平成30年6月22日 (金)

訪 問 先

カナダ ハミルトン市
「ハミルトン観光局」

面 会 者

ケリー・ブルックスジョイナー氏 (ツーリズムマネージャー)
ダナ・ポーシア氏 (観光開発コーディネーター・マーケティング担当)



ハミルトン観光局内にて

3- (1) - 1. 調査目的

本視察では、国内外問わず広く自らの市の観光施設の魅力やイベントなどをPRし、実際に地方再生の道を行んでいる「ハミルトン市」の取り組みを調査することで、今後の各自治体における観光振興策の参考にしているものである。

3- (1) - 2. ハミルトン市の概要

ハミルトン市は、カナダのオンタリオ州西部、トロント市とナイアガラの滝の間に位置する都市である。

人口は、2016年現在、約54万（広域圏では約70万人）で、カナダの都市としては第10位の人口規模を抱え、人口の約4分の1が国外出身である。オンタリオ州の地方



行政区のひとつを構成しており、単一層自治体に位置づけられる。姉妹都市は10都市あり、日本では広島県福山市と姉妹都市を結んでいる。

また、市街地から南西約11kmの所にハミルトン国際空港があり、トロント市にあるトロント・ピアソン国際空港の代替空港としての役割もある。

3- (1) - 3. ハミルトンが再生するまで

・背景

以前、ハミルトン市は鉄鋼を中心とした重工業の街だった。しかし、時代とともに鉄鋼業が衰退していき、それに伴い、街の中心部にはあまり人が集まらなくなり、中心部に住んでいた人までも郊外に出ていき、段々と荒廃していった。

鉄鋼業の衰退によって雇用が減り、市の繁栄が無くなったが、鉄鋼業以外にも、多くの滝や湖などの美しい自然やアート・ミュージックなどは従来から親しまれており、教育・病院・スポーツ関係などの施設も充実していた。

教育分野では、約2万人近くの学生が在籍するマックマスター大学がある。この大学の強みは伝統的に医学と工学であり、研究分野ではカナダトップクラスの大学として知られており、特に北米の先進医療を学ぶため、世界100ヶ国以上からの留学生が集まる大学でもある。

スポーツ分野では、フットボールチーム「Tiger - Cats」やホッケーリーグチ



ハミルトンの工場群

ーム「Hamilton Bulldogs」がある。大きなスポーツ大会として、北米で最も伝統のある徒競走「Around the Bay Race」の開催地であるほか、過去に国際自転車レース「Road World Championships」やゴルフのカナダオープンも開かれていた。

以上のことから、再生のための地域資源は豊富にあった。

ハミルトンに住む人達は、今までの鉄鋼業から知識をベースにした仕事に移行し、ハミルトンが再生していくのに非常に良い機会となる。同時に、クリエイティブ・クラスと呼ばれる新しい創造力を持った人達をハミルトンに集めることが非常に上手くいくようになる。

当時、ダウンタウンにはたくさん空き店舗があった。しかし、住居費が比較的安かったことから、新しいコンドミニウムが数多く建てられ、街の中心部に住む人が増え、次第に中小企業や小さな店も入居したので、空き店舗が少なくなった。

アートなどは以前から盛んであったが、今までの伝統から更に力を入れて成長させ、その結果、アート・クロールをはじめ

とする数多くのアート・ミュージックのフェスティバルがハミルトンで開かれるようになった。

それにより、ハミルトンは上記の背景を基にした再生への波を利用して、活性化への道を歩んでいった。

現在でも、鉄鋼業は重要な業種の1つだが、鉄鋼業だけに頼らず、それ以外の業種、特にスモールビジネスや中小企業も成長したので、多岐的になっている。



ダウンタウンの様子



ハミルトン市内の壁画



イベントの様子

・ハミルトン観光局

ハミルトン観光局はハミルトン市の計画・経済開発局の一部であり、市のマーケティング、観光関係を担当している。職員は5名おり、マネージャー1名、セールス担当が4名在籍している。その他に、ハミルトン市の観光大使でもあり、ボランティアとして活躍している「レイデイズ・ハミルトン」が約50人いる。彼らは、交代で観光局を訪れる人たちにイベント情報の提供や、実際のイベントの手伝いなどを行っている。また、観光に興味のある地元の学生を研修生として迎えるなど、密接な関係を築いている。

観光局が入居しているディスター・ビルディングは、1924年築の市内で最も古いビルの1つである。商業センターとして利用されており、昔からハミルトンの人たちに愛されている建物であった。しかし、18年前の2000年頃には、街の荒廃と同時にこのビルも老朽化が進み、レンガが落ちる位の状態であった。ハミルトン市がこの建物を取り壊そうという話になったが、政治的な決断により取り壊す予定だった方針を改装に変更した。

改装には約3000万カナダドルを要した。茶色のレンガと白色のテラコッタでその景観がしばしば一切れのケーキだと言われている。改修工事の後、建物はハミルトン観光局とレストラン、小売店やオフィスなどが入居している。古いものを元のかたちを残しながら少しずつ直していくのは非常に時間もお金もかかる。建物を取り壊して新しいものを建てた方がお金はかからない。しかし、改装した結果、再開発のシンボルとなり街の人も愛着を覚え、ハミルトンのダウンタウンを中心としたほかの地域も綺麗になっていった。



改装前



改装後

ハミルトン市は、歴史的な意味を込めて、改装というものに非常に力を入れている。改装には多額の資金がかかるが、長い目で見れば経済的には良い結果を生み出した。それが、より良いものを作ること、そしてハミルトンに住みたい、働きたい、行ってみたいという魅力に繋がっている。

ハミルトン観光局はビジターセンターとも呼ばれ、ハミルトンを訪れる観光

客だけでなく、ハミルトン市に住む人も、ハミルトンでどんなことが計画されているかを知るためにここに来る。ここでは、地図・マガジン・イベントのチラシやガイドブックなど誰もが気軽に手に取れる多彩な情報誌を無料で配布しており、ハミルトンの住民が作ったお土産品なども販売している。

また、観光局の中に会議室があり、会議や文化的なイベント及びアート・ミュージックなどの催しに使用する目的で有料にて貸し出していて、資金源の一つにもなっている。他には、今年オープンしたパティオと呼ばれるベランダがあり、20人位座れる椅子と机が用意され、観光客や市民がそこで休憩をしたり、交流したりするスペースになっている。



ガイドブック



Tシャツの販売

・観光

ハミルトン市には13の主要な観光資源がある。

①滝

ハミルトンは「滝の街」として有名である。車で45分程の所にあるナイアガラの滝ほどは大きくないが、120を超える数の滝があり、世界でもこれだけの滝が集中している例は他にないといわれている。特に、ハミルトン西方のスペンサー溪谷の中にあるウェブスター滝はとても美しく、人気の観光スポットである。



ウェブスター滝

②ロイヤル・ボタニカル・ガーデン

カナダで最も大きな植物園で、鉄鋼の街というイメージから広大な植物園が存在すると驚く人もいる。この植物園では、植物、昆虫、鳥類などあらゆる自然を保護していて、総合的な学びの場として整備され、27kmのトレイルやハイキング、バドリングが利用でき、サマーキャンプも行われている。

③ダンダーン・キャッスル

1835年に建てられたイタリア風建築の城で、現在は博物館になっている。外観はお城のように見えるが、中は博物館で、カナダの歴史について紹介し、メイドの衣装を着たガイドが案内するツアーもある。

④アート・クローラ

無料で自分の好きなアートを創り上げていくというイベントで、月1回開催し、約1,000人集まっている。

⑤カナダ軍用機歴史博物館

1972年にオープンした博物館で、ハミルトン国際空港に併設されている。現在、50機近くのコレクションが展示され、飛行体験も行っている。キッズサマースクールなど、子供向けのプログラムも積極的に行われている。

⑥ハミルトン美術館

1970年にオープンしたオンタリオ州で一番大きい美術館の一つであり、美術館の建物は美しく改装されたものである。現在、カナダとヨーロッパの芸術作品が1万点以上収蔵されている。

⑦アフリカン・ライオン・サファリ

ハミルトンの北西郊外に位置しており、入園者数年間約50万人と、ハミルトンでは観光客数が一番多い施設である。1969年に開園した自然体験型の観光スポットであり、世界中から集められた100種類の鳥や動物達を見ることができる。園内では、バス、鉄道、ボートクルーズを利用して巡ることができる。

⑧カナダ国内で有名な多くのフェスティバル

ハミルトンでは、ミュージックやスポーツ、大道芸イベント、メープルシロップや、ビール、桃、りんごなどを扱った各種フェスティバルなど多くのイベントが年間を通して開催されている。人々が集まり、コミュニティの良さを知ることのできる機会でもある。

⑨ウォーターフロント

ハミルトンには、世界的に名の通った2か所を含め、5か所のウォーターフロントがある。これらの場所が以前工業地帯であった時は訪れる人がいなかったが、ベイフロントパークや第4埠頭などの公園及び湖岸などへの再生により、現在は多くの観光客が訪れている。

⑩ティム・ホートンズ・フィールド

ハミルトンにあるアメリカンフットボールチームの本拠地で、野外のイベントやコンサートにも使用されている。2015年のパンナム・ゲームズ（正式名称「パン・アメリカン競技大会」。南北アメリカの国々が参加する4年に一度の総合競技大会のこと。）の開催に合わせて、以前あったアイヴァー・ウィン・スタジアムを名称変更した上で建て直した。元プロホッケー選手であるティム・ホートンが創業したカナダで有名なカフェ・チェーンがスポンサーになった施設でもある。

なお、ティム・ホートンの第1号店はハミルトン市内にある。

⑪ウエストフィールド・ヘリテージ博物館

18～19世紀の村を復元したもので、学校、鍛冶屋など、30以上の建物がある。ウエストフィールド遺産の村とも呼ばれ、18～19世紀の村の生活を疑似体験できる施設である。

⑫ハミルトン・ファーマーズ・マーケット

屋内の施設では、カナダで一番古いマーケットの一つであり、ハミルトン観光局の近くにある。マーケットでは、色々なものが売られているが、最近は調理された料理を提供して、カウンターで食べられるようになっていることが特筆される。

⑬スーパー・クロール

アート・クロールがきっかけで始まったもので、ハミルトンにとって一番の成功談といえるイベントである。アートとミュージックのイベントで、10年前は約3,000人が集まるイベントであったのが、今では約20万人以上の人が集まる一大イベントとなった。イベントの時には、ハミルトンのダウンタウンの通りを全て歩行者天国にしているほど。

なお、このスーパー・クロールは、オンタリオ州及びカナダ連邦から賞を受賞している。



スーパー・クロールの様子

3- (1) - 4. ハミルトン観光局の具体的な取組

市の文化を更に繁栄させるための色々な計画がある。その一つに経済開発のアクションプランがあり、そのプランの中でも観光がハミルトンのために重要であることが明確となっている。

主な取組の内容

- ・新たなマーケティングの枠組み作り
(資産をいかに有効に使っていくかを検討している。)
- ・イベント企画社、作家、アーティスト、国内外メディアへの PR
(ミーティング、コンベンション、スポーツイベントの誘致)
- ・PR ビデオの作成

3年前に製作され、ハミルトン市のマーケティング賞を受賞した。

ハミルトン市にどんな施設があり、どんなイベントが行われているかを紹介することによって、ハミルトン市が鉄鋼業の街から移りつつあることを紹介するためである。ハミルトン市は汚い街だとか、美しいものはない、というイメージがあったが、ビデオでは、滝や湖があり、水が豊富で、一部はユネスコにも指定されている地域があるなど美しさをも紹介している。このような自然の美しさのほか、ミュージアムとかアートギャラリーなどの文化も盛んな街である事を知ってもらいたかったことが製作のきっかけとなった。

一般に公開されていて、ビデオタイトルは「**Secrets Out** (秘密が漏れた)」である。

- ・インターネットの活用

PR の一例として、1つのプラットフォームを作り、そこにハミルトンを訪問した人が思い出や記念の写真など、自分が撮った写真を載せ、集約する仕組みがある。

これは「マイ・ハミルトン」といい、写真のコンテストである。この写真はマーケティングにも活用されるため、優勝者には賞金もある。

ハミルトンの綺麗な写真ばかり紹介するだけでなく、さまざまな人が撮ったリアルなハミルトンを紹介し旅行者が訪れる1つのきっかけになることを狙ったものである。



マイ・ハミルトン



コンテスト入賞作品

3-（1）-5. 質疑応答

Q1：鉄鋼の街からアート、スポーツ、ツーリズムに力を入れたきっかけは。

A1：鉄鋼業が下火になり、雇用が減ったのがきっかけである。

Q2：観光客を増加させるために現在、力を入れていること。今後の施策は。

A2：メジャーなイベント、特に大きな会議、コンベンション、スポーツ、ミュージック、アートなどの大きなイベントを売り込むことに力を入れている。現在、ハミルトンには約2,000室分のホテル、そして大きなスタジアム、競技場や劇場などがあり、それらの施設を各種イベントに活用していきたい。特にレジャー関係の市場としては、ハミルトンより40kmから200kmまでの範囲をターゲットにしている。トロント周辺の人たちが、文化的行事や大きなイベントを通じ、友人や家族と共にハミルトンを訪れてもらえるよう誘致活動を行っている。

また、新しいブランドとして、ロゴを作成し、それを促進している。



ハミルトン観光局のロゴ

Q 3 : どのような誘致活動をしているか。

A 3 : ハミルトン市のガイドブックを作成し、主にオンタリオ州内で幅広く配布している。各地のツーリズムセンターや観光客が集まるアトラクション、ホテルへの設置や、ダイレクトメールなどでの配布を行っている。

Q 4 : 観光資源として滝を挙げているが、どのようにして人を集めているか。

A 4 : アトラクションなどを組織するオーガナイザーの人達自身が自分達の方で色々な PR や促進をしていて、我々観光局はそれに対して手助けをしている。つまり、オーガナイザーだけが促進しているのではなく、観光局と協働で、密接に関連しながら、色々な方面でそれぞれ力を入れて促進している。

Q 5 : PR の方法、どういう風にして観光客を誘致しているのか。

A 5 : 色々なメディアを使っている。特に、ソーシャルメディアが重要な存在となっている。

Q 6 : ビッグイベントの誘致を一番に考えているという話であったが、それに対して、観光局はどのように関わっているのか。

A 6 : イベントの開催中に関しては、ハミルトン観光局のスタッフは直接的な関わりは無いが、イベント開催時に観光局はオープンしていて、たくさんの方が来館され、色々なサービスを提供しているので、そういう意味では役割を果たしている。

また、フェスティバルによっては、市がある程度の助成金を出すイベントがある。

3 - (1) - 6. まとめ

今回は、「観光と地域資源を結び付けた地方再生」というテーマで、ハミルトン市の観光資源とそれを活かす観光局の働き方について、ハミルトン観光局を視察し考えてきた。

わが県、千葉県の観光資源として圧倒的な存在は、全国トップクラスの集客力を誇る東京ディズニーリゾートをはじめ、成田山新勝寺、海ほたるパーキングエリアである。また、首都圏に隣接する本県は、東京湾アクアラインや首都圏の新たな交流軸として整備が進む首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、国内外の観光客のハブ空港として機能強化が進む成田国際空港を擁し、これらは千葉県の観光振興を大きくけん引している。

その他に目を向けると、落花生をはじめネギや梨など生産量全国 1 位の農産品や豊富な水産品、県南部には美しい山々や四季折々の花々、県東部には雄大な太平洋に面する九十九里浜など、豊かな自然や多種多様な食材がある。

しかし、各自治体において、様々な観光施策に取り組んではいるものの、全

国的に認知されていないものも多いのが実態である。

千葉県や県内の自治体を持つ魅力を知ってもらうためには、テレビやラジオなどの電波媒体を通じた情報発信に加え、今回視察したハミルトン市のように、近年普及が加速しているスマートフォンなどを利用した SNS や YouTube などのソーシャルメディアの活用も比較的成本をかけずに PR できる有効的な手段として考える。

観光拠点が増えていくことで、地域が活性化し、町おこしにつながっていくことを今回の視察で痛感した。

我々地方自治体においても、今ある資源を再度見直し、発見し磨きあげていくことで、新たなマーケティングや集客力を生むことが出来ると考えられるし、地方再生へのきっかけになると期待しながら、カナダ・ハミルトン観光局の視察のまとめとする。



対応して下さったツーリズム・マネージャー
ケリー・ブルックスジョイナー氏

(2) サレー等民泊ホームステイ組織

担 当

神 崎 町	町 民 課	澤田 達也 (班 長)
横 芝 光 町	住 民 課	加瀬 淳一 (編集責任者)
九十九里町	総 務 課	山田 昌之 (記録責任者)
長 生 村	産 業 課	佐瀬 友基 (編集責任者)
白 子 町	総 務 課	森 晃子 (写真責任者)

訪問日

平成30年6月25日 (月)

訪問先

ブリティッシュコロンビア州 バンクーバー市及びサレー市内
「株式会社 国際交流センターとホームステイファミリー」

面会者

株式会社 国際交流センター 中谷氏



説明者の中谷さんと2軒目のホームステイファミリーと

3-(2)-1. 調査概要

一般社団法人海外留学協議会が、加盟する留学事業者40社に行った調査によると、2016年度のカナダへの留学者数は12,194人で、アメリカ、オーストラリアに次いで3位となっている。

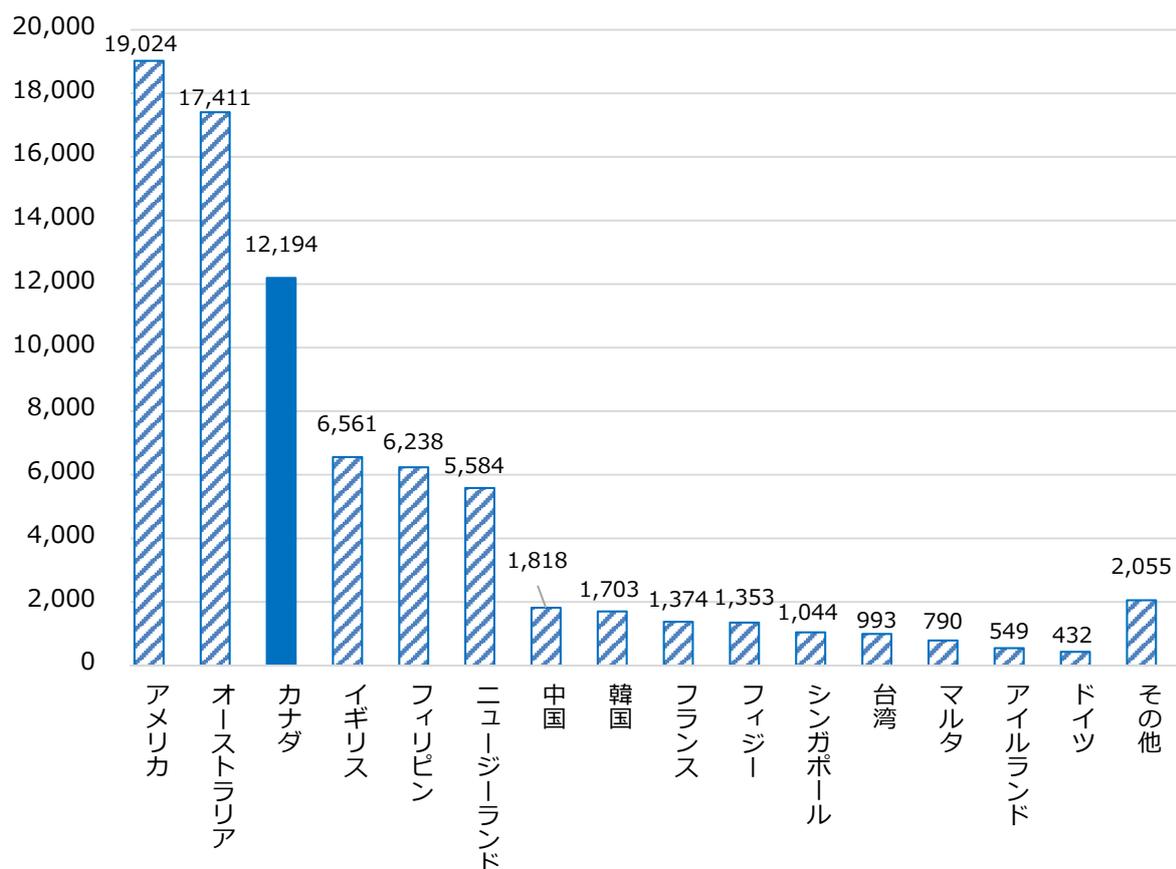
カナダは、移民が多い国として知られており、外国人や留学生に対しても寛容であり、聞き取りやすいきれいな英語を話す国といわれ語学留学先として人気が高い。特に、バンクーバーは、大都市でありながら自然環境にも恵まれており、治安面でも比較的安全で住みやすい都市としても人気となっている。

日本でも、外国人の民泊希望者の増加に加え、古民家等を活用した観光振興による地域活性化に期待する機運の高まりに伴い、住宅宿泊事業法（新民泊法）が成立したが、公衆衛生面や地域の理解、いわゆる違法民泊の問題など依然として課題も多い。

今回の訪問先では、カナダのホームステイ受入れの仕組みの現状や課題を学び、外国人を受け入れるにあたっての参考とする。

日本人留學生数調査

(単位：人)



3 - (2) - 2. MANAK ENTERPRISES INC.

(株式会社 国際交流センター)

代表を務める中谷氏は移住者であり、2002年3月からバンクーバーの中心街のビルに本社を置き、日本からの語学留学生やワーキングホリデーのカウンセリングや学校紹介、ホームステイ先とのマッチングを行っている。

ホームページは日本語版もあり、オフィスでも日本人女性のスタッフが対応しており、海外で生活を始める学生には安心感がある。

ホームステイファミリーの登録数は約1,000軒あり、留学生の年間受入れ数は約2,000名。主に学校単位等のグループ研修（英会話研修）や学校交流のプログラムが中心だが、個人留学も年間200～250名受け入れている。日本から個人で留学する場合はカナダの英会話学校に入学することが多く、ホームステイの斡旋だけでなく、カナダでの生活もサポートしている。

グループの受入れは、4～5名から多い時で200名以上の研修を扱うこともあり、200名以上の場合は1～2日での学校訪問が多い。また、滞在期間は学生によって様々だが、語学力向上を目指しているため、1か月から1年くらいまでと中長期にわたるケースが多い。

ホームステイファミリーは、学生の受入れが主となっているが、一般観光客の民泊を受け入れている家庭もある。

課題としては、留学希望者の増加に伴い、ホームステイファミリーが不足している状態で、ホームステイファミリーの募集も行っている。

また、留学生を紹介する学校は主に公立校だが、最近は受け入れが厳しくなっているため、私立校にも範囲を広げている。



▲MANAK ENTERPRISES INC の入るビル（写真左）とオフィス内（写真右）

3－（2）－3．ホームステイファミリーの概要

☆ホームステイファミリーの主な条件

- ① 1日3食提供できること。
- ② 学生とは英語で話すこと。
- ③ 学生に専用の部屋を提供できること。
- ④ 学生の部屋に机と椅子、ベッド、照明を設置すること。
- ⑤ 無犯罪証明書を提出すること。
- ⑥ きれいに家事をすること。
- ⑦ 夜間は大人が1人以上いて留学生を1人にしないこと。
- ⑧ 独身男性1人でないこと。(独身女性は可：食事面を考慮して)

サレー市内の2軒のホームステイファミリーを訪問した。

サレー市はバンクーバーの南東に位置し、面積は316.41㎢で、県内では君津市とほぼ同じ広さだが、人口は約52万人で君津市の6倍以上に及ぶ。

バンクーバー市内へのアクセスも良く、数多くの公園やゴルフ場、スポーツ施設なども充実しており、恵まれた住環境にある。住宅や土地の価格が高騰するバンクーバー市内から移住するケースも多く、近年はベッドタウンとして大きく発展している都市である。

サレーの学生数は7万2000人を超え、バンクーバーより多くなっており、高校が20校、小学校は100校ほどあるが、人口急増で追い付かず仮設校舎で対応している学校もある。

市内の住宅地には、広い敷地に庭付きの大きな家々が建ち並び、建築中の住宅も多く見られる。

訪問した2軒は、この地域では標準的な家庭とのことだが、日本の住宅と比べるとはるかに大きく、生活にもゆとりが感じられる家庭である。



▲建築中の住宅が多く見られる



▲広い庭の奥に大きな家が建つ

3 - (2) - 4. 1軒目のホームステイファミリー

家族構成：夫婦と子ども3人（男2人、女1人）



▲一般的な家庭だが広々としている

標準的なカナダの家庭でそれほど大きな家ではないとの説明だったが、ベッドルームは5つ、バスルームは各部屋に1つあり、日本の住宅と比較するとかなり大きな建物である。カナダでは、あまりバスタブを使わないため、シャワーだけのバスルームもあれば、バスタブ付の場合もある。

真夏でも窓を開ければ涼しいのでエアコンはない。冬もそれほど寒くならないが、暖房は天然ガスを使った暖房が全室に入っていて室内は暖かいため、屋外に出る時はコートを着用するが、室内ではTシャツで過ごせる。

カナダは日本と違い湿気が低いので、建物も長持ちし、頻繁にリノベーションしながら使い続けるので、築50年、60年の家は普通にある。この家は築10年くらいだが、すでにリノベーションされており、ドアやクロス、フローリングなども新しくきれいであった。

学生の部屋やリビング、キッチン、トイレなど、どの部屋もきれいに整理整頓され、掃除も行き届いている。食事は3食全て提供しており、洗濯は1週間に1度ホストにやってもらうケースが多い。

滞在期間は長くて3年、短期プログラムで1～2泊の場合もある。受け入れる学生は日本人が多いが、中国人や韓国人も受け入れている。食文化の違いはあるが、基本的には各家庭の料理を提供している。

3 - (2) - 5. 2軒目のホームステイファミリー

家族構成：夫婦と子ども1人（女の子）

10年前にホームステイの受け入れを始め、育児のため1度辞めたが3年前に再度始めた。受け入れ期間は通常1～2週間で、日本人の受け入れが多く、メキシコ人や中国人も受け入れている。

家の中ではカナダの生活文化を取り入れ、英語での会話を徹底している。初めのうちは、その日の学校での様子を話させ、できるようになったら、明日はどのようにするかを話させるようにし、娘さんも会話に加わるようにしている。留学生を複数人同時に受け入れる場合もあるが、日本人同士で固まらないように気を配っている。

正面からはそれほど大きな家には見えないが、ホスト用とホームステイ用の

2つのバスルームがある。キッチンが自由に使える、冷蔵庫の中の物も自由に食べてよい。また、裏庭もあり、カナディアンホッケーやバレーボール、トランポリン、バドミントンなども一緒に楽しみ、その時も英語で話すようにしている。また、民泊用の部屋（4人部屋）もあり、学生が希望すればホームステイ用としても提供している。



▲学生用の部屋



▲白を基調とした明るい外装の家



▲家族と遊べる広い裏庭



▲リビングやダイニングは家族と共有

3- (2) -6. まとめ

今回訪問した場所は、大都市の郊外にあり交通アクセスも良く、外国人の受け入れも飽和状態になっている。

日本においてもホームステイや民泊で人気があるのは東京や大阪、京都を筆頭に、大都市や知名度の高い観光地である。いかに地方の地域に人を呼び込むかは全国の地方自治体が抱える課題であるが、バンクーバーでも一步郊外に出てしまうと、交通手段がなく、人通りがない光景も目にした。千葉県は成田空港を擁し、アクアラインや圏央道などアクセス面でも恵まれた立地にある。

近年、民泊など地域の生活に密着した訪問スタイルが注目される中、好立地を生かし、グリーンツーリズムなど地域特性も盛り込んだご当地ならではのおもてなしが、これからの観光の特徴となっていくのではないかと。

(3) ツーリズム セントジェイコブス

担 当

神 崎 町	町 民 課	澤田 達也 (班 長)
横 芝 光 町	住 民 課	加瀬 淳一 (編集責任者)
九十九里町	総 務 課	山田 昌之 (記録責任者)
長 生 村	産 業 課	佐瀬 友基 (編集責任者)
白 子 町	総 務 課	森 晃子 (写真責任者)

訪問日

平成30年6月28日 (木)

訪問先

オンタリオ州 キッチンナー市
「ツーリズム セントジェイコブス」

面会者

メルセデスコーポレーション ジェニー・シェンツ氏



セントジェイコブス キングストリートで説明者のジェニー・シェンツ氏と

3 - (3) - 1. 調査概要

「地域振興」は、まちづくりの大きなテーマであり、特に人口減少が著しい地方の自治体では、交流人口の増加で地域活性化を図るため、元々地域にある観光資源を生かした観光振興が施策の大きな柱となっている。自然や環境、文化、産物など「観光資源の発掘」を見出すのはもちろんだが、それらをいかにセールスポイントとしてアピールできるかが重要である。

今回訪問したセントジェイコブスは、19世紀から自給自足の生活を送る「メノナイト」と呼ばれる人々の生活スタイルや文化を継承しながら、その特性を観光に結び付け、発展した地域である。この地域が観光地としてどのように発展していったのか、本視察を通じて考察し、地域振興策の参考とする。

3 - (3) - 2. セントジェイコブスの概要

セントジェイコブスは、オンタリオ州の南西部ウォータールー地方にある小さな街である。州都トロント市から南西に約130kmと立地にも恵まれており、多くの観光客が訪れている。

のどかな田園地帯が広がるこの街には、メノナイトと呼ばれる自給自足の生活を送る人々が多く暮らしており、街の中でも黒い服を着て黒い馬車に乗ったメノナイトの姿を見ることができる。

街の中心地になっているキングストリートには、約500mにわたってキルトの専門店やクラフトショップ、ほうき屋、石鹸屋、陶器屋などのほか、カフェやレストランなど様々なお店が軒を連ねている。

また、街の中心部から約2kmには、約600店舗が集まるカナダ最大のファーマーズマーケットがあり、農産物や工芸品のほか、食料品、日用雑貨、衣料品など数々の商品が並ぶ。敷地に隣接して劇場やアウトレットもあり、トロント市内や遠方からも多くの買い物客が訪れ、賑わっている。



▲キングストリートの街並み

この街の最大の特徴は、電気や自動車を使わずに、19世紀から変わらない質素な服を着て、馬車で移動し、自給自足の生活を送る「メノナイト」と呼ばれる人々が多く住んでいることである。

3- (3) - 3. セントジェイコブスの歴史

1780年代からウォータールー地方にメノナイトと呼ばれる人々が定住し、農業を営み、セントジェイコブスには鍛冶やほうきなど生活道具を作る職人が集まり、小さいながらも街が形成された。

20世紀になるとオンタリオ湖周辺では工業が発展し、都市化が進み、トロントや周辺の街では電気や自動車など技術発展の恩恵を受けるようになったが、セントジェイコブスの人々は静かに昔ながらの生活を続けていた。一方で、価値観が多様化し、街を離れる人も出はじめ、徐々にさびれていった。

1960年代に入ると、昔ながらの生活を送るメノナイトに興味を持つ人々が街を訪れ、突然馬車の前に立ちはだかつて写真を撮るなど、彼らの静かな暮らしを妨げられるようになり、問題となった。

1970年代に、セントジェイコブスの実業家シェンツ氏が空き店舗を購入して150席のレストランを開店した。彼はメノナイトの中でも近代的な考えを持ち、観光で再び街を活気づけようと様々な活動を始めた。すると、昔のままの生活を守ってきたメノナイトたちから自分たちの生活を邪魔する状況を何とかしてほしいと相談され、1974年にメノナイトセンターを開設した。この施設では、観光客にメノナイトを正しく理解してもらい、観光と人々の暮らしの共存を図るため、メノナイトの歴史や共同体の暮らし、社会貢献活動などを展示資料や最新の映像設備で紹介しており、映像に合わせて多言語の音声ガイドが流れ、日本語でも聞くことができる。



▲メノナイトセンターの外観と館内の様子

シェンツ氏は、空き店舗になっていた建物の活用にも取り組んだ。

日本でもシャッター通りとなった商店街や空き家対策は大きな課題となっており、様々な取り組みがなされているが、ここでは「セントジェイコブスらしさ」を再構築しながら街を活性化させている。

シェンツ氏は、鍛冶やほうき作りなど、かつてこの街を活気づかせていた手工業や工芸の職人たちをカナダ中から招き入れた。当時は土地の価格も安かったため、職人たちの間でセントジェイコブス移住の人气が広まり、10年ほどの間に100店舗を越える商店街となった。職人達の手仕事による温もりのある商品は、メノナイトの暮らしのイメージと重なり、新たな価値を生み出した。隣接するキッチンやウォータールー、トロントから、大量生産の工業製品に飽きた人々が訪れ人気の観光地となっていく。併せて不動産価格も上昇し、街全体の経済的価値も向上した。

しかし、生活習慣の異なる新しい住民と、古くから住む住民とのギャップは往々にして生じるものであり、ここでも移住した職人たちと、メノナイトの人々の間で顕在化したことがあった。

お互いに話し合った結果、店舗の売り上げの10%を、街を更に活性化させるための資金として納めるということで折り合いをつけた。

移民の国であり、様々な人種・宗教・思想の人々の住むカナダでは、こうしてお互いの価値観を認め合いながら成り立っている。

様々な色や形、素材が集まってできている「モザイク国家」がここに見て取れた。

▶通り沿いの店舗には、職人が手作りした工芸品や生活用品が並ぶ



▲おしゃれでかわいい店舗が軒を連ねる



3- (3) - 4. メノナイトについて

メノナイトは、16世紀のスイスに起源をもつプロテスタントの流れを汲む一派の人々である。ドイツやオランダに広がっていったが、その教義が当時の教会の権威を否定したことから危険な存在として迫害を受け、18世紀にドイツにいた一部の人々が、移民に混じって新天地であるカナダに渡ってきた。

ウォータールー地方には、主にドイツやオランダ系のメノナイトが1780年代から定住し始め、特にセントジェイコブスはメノナイトの街として知られている。彼らは、質素、共同体生活、非暴力、融和、平和主義といった特徴を持ち、お互いを尊重することを大切にしている。また、ボランティア活動や途上国支援に積極的に取り組んでいる。

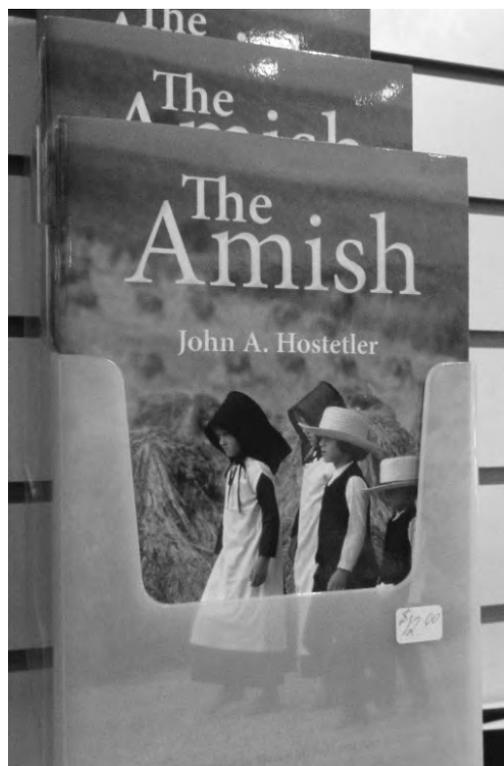
長い歴史の中で、メノナイトの教義を守りつつも生活は多様化し、セントジェイコブスの中でも静かに昔ながらの暮らしを続ける「オールドオーダー」と、事業や経済活動を行い私たちとほぼ変わらない生活を送る「モダン」なメノナイトに分かれている。

女性は小さな花柄のワンピースと白い帽子、男性はシャツに黒のジャケットと長ズボンを着てハットを被り、服装でも一目でメノナイトと分かる。教会へ行く時や外出する時には、女性も黒の帽子や黒い服装をする姿も見かける。

また、メノナイトの一種であるアーミッシュと呼ばれる人々も同地域で暮らしているが、アーミッシュの女性は紫や緑などの無地のワンピースを着用しているので、メノナイトとの違いを識別できる。



▲▼メノナイトの暮らし



▲アーミッシュを紹介するパンフレット

3 - (3) - 5. メルセデスコーポレーションとファーマーズマーケット



▲現在、メルセデスコーポレーションの代表を務める娘のジェニー・シェンツ氏

セントジェイコブス再興の立役者シェンツ氏は、七面鳥の輸出で商業的に成功を収めたメノナイトである。彼は、様々な国との取引で各国を商談で渡り歩き、色々な観光地も訪れ、さびれてしまったセントジェイコブスを観光で発展させようとするようになり、世界中の観光地を巡った知見とビジネスの手腕を活かして「メルセデスコーポレーション」という会社を立ち上げ、前述のような事業を展開していった。

メルセデスコーポレーションが手掛けて大きな成功を収めた事業にファーマーズマーケットがある。

元々この地域には市場があり、農産物の販売や家畜の競りなどが行われていた。

1980年からメルセデスコーポレーションは、大規模なファーマーズマーケットの開発を始め、以下のテナントなどを次々と建築する。

○ファーマーズマーケットビルディング

1階では新鮮な肉やチーズ、地元産のメイプルシロップやハチミツなどの食材、2階ではメノナイトの手作りの工芸品や衣服、装身具を販売している。

○ペダラーズビレッジ

直訳すると「旅商人の村」。衣類、靴、宝飾品、革製品、おもちゃ、世界中の食べ物を販売している。

○キルテッドエアルームズ

メノナイトによる手作りのキルトを販売する専門店。

○セントジェイコブスファーニシング

メノナイトの熟練職人による手作りの家具を販売している。

この他に敷地内にはテントが立ち並び、農場から採れたての新鮮な野菜や花、焼きたてのパン、陶器のほかに衣類、靴、化粧品、ジュエリーまで、あらゆる物を販売している。また、充実したフードコートからは食欲をそそる匂いが立ち昇っている。

敷地内から農場を馬車で巡る体験ツアーや、家畜の競り売り体験などアクティビティも充実し、高速道路のインターチェンジも隣接して交通アクセスも良いことから、カナダ最大のファーマーズマーケットに成長していった。

また、敷地周辺にはホテルや劇場、家具店、アンティークショップ、アウトレット等も立地し、一大ショッピングゾーンとなっている。

メルセデスコーポレーションの年間予算は約30万カナダドルであり、すべてセントジェイコブスの事業主たちで調達しており、キングストリーの店舗やファーマーズマーケットに隣接したホテルや劇場からの出資、ファーマーズマーケット出店者の面積に応じたテナント料などで賄っている。

国や自治体からの継続的な支援は受けていないが、活用できる政策プログラムがあれば利用して補助金を受けることもある。



▲買い物客で賑わうファーマーズマーケット

3-(3)-6. 課題

観光への取組を始めて50年以上が経過し、新たな課題が生じている。

かつて、キングストリーには100軒を越える店舗が立地していたが、商圏人口からすると店舗のみでは持続できないことが明らかになったため、キングストリーの建物の用途を店舗のみから事務所や住居も可とした。

不動産も動いているが、建物を購入できるのはテナントの借り手など既に住んでいる者に限定し、街づくりに参加する意識を重視している。

出資やテナント料で運営資金を調達しマーケティングも行ってきたが、より持続的な取組に向けて BIA（ビジネスインプローブドアソシエーション：業務改善協会）を設立し、様々な主体が連携するしっかりした組織として、更なる改善を図ろうとしている。

3-(3)-7. まとめ

今回は民間による地域資源の再発見と活用の事例として、セントジェイコブスを視察した。

メノナイトを観光資源として活用し、街の活性化を図ったシェンツ氏は、自身もメノナイトであるが、仕事で世界を飛び回ることによって「外部の目線」を得たことが活動の原点となった。また、カナダ中から職人たちを集めたことで人口も増え、街に活力を与えたことも成功の要因である。

観光としての成功のポイントは、「メノナイトの住むセントジェイコブス」という、ここにしかない独特なイメージと価値を創り出し、発信し続けている点である。

こうして発展した街を継続して支えているメルセデスコーポレーションは、自立した運営を行い、今も改革を続けている。

昨今の日本でも、まちづくり会社の設立や観光協会の法人化など各種の組織が立ち上がっている。行政主導や行政主体ではなく、民間組織や地域の人々がまちづくりに積極的に参画することではじめて観光振興や街の活性化が動き始める。我々地方自治体は、彼らとビジョンを共有し、適切な関係を構築してまちづくりを推進していきたい。

4. おわりに

我がまちの観光を考えるうえで、地域振興・地方再生は、我々地方自治体にとって重要な問題である。

今回視察した「ハミルトン観光局」、「サレー市等民泊ホームステイ組織」、「ツーリズム セントジェイコブス」は、それぞれ大都市から1時間圏内にあり、立地的には日本における我々千葉県地方自治体と共通している。

また、3か所とも行政・民間それぞれの立場で、豊かな自然や伝統・文化を取り入れつつ、新しいことにも積極的に取り組んでおり、地域振興・地方再生において学ぶべき点が多い。

我々も、今一度、我がまちの魅力ある特色・資源は何かと考え、潜在的な観光資源の発掘につなげていくことが重要である。そのためには行政・民間それぞれの施策を進めるだけでなく、協力・協働することが不可欠である。行政からの一方通行ではなく、地域住民や民間の組織と一緒に地元を盛り上げることで更なる地域の活性化につながり、ひいては観光人口の増加につながるものと考えている。

参考資料

- ・ ツーリズムハミルトンHP 「マイ・ハミルトン」 より
<https://tourismhamilton.com/myhamilton-photo-contest>
- ・ <https://ja.m.wikipedia.org/wiki/カナダの州>
- ・ 平成30年度市町村職員海外派遣研修事業 事前研修資料
- ・ 外務省HP
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol38/index.html>
- ・ 現代観光総論（学文社）
- ・ 第2次観光立県ちば推進基本計画（平成26年3月千葉県）
- ・ 一般社団法人 海外留学協議会HP より
<http://www.jaos.or.jp/newsrelease>
- ・ St.Jacobs country ウェブサイトより
<https://stjacobs.com>

研修テーマ 子育て

【担当者】

A コース：木村 真喜子／荒井 紀子／鈴木 淳／中沢 愛子

B コース：佐藤 幹宏／山本 和人／山田 朋和／中山 聡／石井 学

【視察先・視察日】

- 1 サウスバンクーバーネイバーフッドハウス (A コース・6月18日)
- 2 ボーイズ&ガールズクラブ BC (A コース・6月18日)
- 3 ウェストサイドファミリープレイス (B コース・6月25日)
- 4 シュタイナートロントスクール (B コース・6月29日)

1. 調査の目的

我が国では、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等を背景に、様々な課題が拡大、顕在化している。子どもが地域の中で人々に見守られながら遊ぶという自生的な育ちが困難となり、乳幼児と触れ合う経験が乏しいまま親になる人も増えてきている。一方で、身近な人々から子育てに対する協力や助言を得られにくい状況に置かれている家庭も多いことなどが指摘されている。保育の充実や地域における子育て支援の展開など保育関係者の努力によって改善されてきた面もあるものの、子育てに対する不安や負担感、孤立感を抱く人は依然として少なくない。こうした中、児童虐待の相談対応件数も増加しており、大きな社会問題となっている。また、平成30年4月から施行された保育所保育指針に「地域子育て支援」が明記され、子育て支援が一層求められている。

一方、カナダでは、必要とされている支援が提供され、母親が比較的不安を持たずに子育てができる国と言われている。また、保護者の養育力を高めることが大切であると考えられ、カナダ全土で普及している **Nobody's Perfect Program (NP プログラム※)** をはじめ、各種ワークショップやプログラムが多数実施されている。

本調査は、カナダの子育て支援に関する施設を訪問し、その特徴や実践方法を調査、日本の制度との違いを研究することで、今後の子育て支援施策の参考にすることを目的とするものである。

※NP プログラムとは

0歳から就学前の乳幼児を持つ経済的に恵まれない若い親たちが、自信を持って子育てができるように作られたものであり、1980年代にカナダ東海岸4州の保健機関が共同開発し、今日もカナダ全土で実施され、予防的効果をあげている。

2. 国・都市概要

(1) カナダ全般

カナダは連邦国家であり、10の州と3の準州で構成されている。面積は998.5万平方キロメートルで、ロシアに次いで広い。



人口は、約3,515万人（2016年国勢調査）であり、ヨーロッパ系白人が72.9%、黒人3.5%、先住民4.9%、中南米系やアジア系などを含むその他が19.3%となっている。2011年の国勢調査より5%増加しているが、これは国民の出生率が向上したためではなく、その多くは移民の流入であると言われている。また、2018年から2020年までに約100万人の移民の受け入れが計画されており、今後の人口増加についても、移民によるものが大多数を占めると予測されている。

このように、人口や労働力を移民に頼るカナダでは多民族が共存しているため、互いの相違を認め合う姿勢が強く、個人と人権を尊重する意識につながっている。

公用語は、英語とフランス語が1969年に制定された公用語法によって認められている。公用語法では、連邦政府における英語とフランス語が平等な地位にあることが定められ、ほとんどの商品や看板等に両言語の併記されている。

文化について、カナダはしばしば「進歩的、多様で、多文化主義的」とされる。先住民の文化から、移住してきたヨーロッパ系の文化、さらに近年の様々な国からの移民の持ち込む幅広いものが含まれ、混じり、重なり、形成されている。その中で政治的にも多文化主義が憲法で守られ、政策的にも推進されてきたカナダは、世界中からの移民が造り上げた多民族国家であり、多文化主義を国策に掲げて互いの違いを認め合う人権意識の高い国である。

(2) ブリティッシュ・コロンビア州

訪問先であるブリティッシュ・コロンビア州（以下、「BC州」と言う。）は、西は太平洋、東はロッキー山脈に囲まれた、カナダ西海岸に広がる州である。広さは日本の約2.5倍あり、樹齢数百年の樹木が茂る温帯雨林、砂漠地帯、山岳地帯等地理的にも多様である。

地方自治について、BC州には160の自治体があり、市町村等に分かれている。その役割は、地方道路の建設・維持の他、5,000人以上の住民がいる自治体については警察サービスの提供が義務付けられているが、残りのサービスは自治体が任意で供給している。また、カナダ憲法によれば、基本的に保健医療、公衆衛生、福祉等の事項は州政府の管轄と定められているが、教育については、特定目的地方政府であるディストリクトにおいて、教育委員会がその責任を担っている。

(3) オンタリオ州

オンタリオ州は、東はセント・ローレンス川、南側は五大湖、そしてアメリカ国境に接している。四季がはっきりしていて温暖だが、夏と冬の気温差が大きい。首都オタワとカナダ最大の都市で、今回の訪問先であるトロント市や観光地ナイアガラ・フォールズがあり、面積は日本の約3倍、人口は約1400万人とカナダ全体の約3割を抱え、同国の政治・経済の中心地である。

オンタリオ州では、1995年には約850あった地方自治体を州主導で再編し、現在は444まで減っている。地方自治体は、概ね自治体(municipality)と特定目的自治体(special purpose body)の大きく2つに分かれ、さらに二層自治体と単一層自治体に分かれるほか、各種の委員会が存在し機能を分担するなど、複雑な地方自治の形態をとっている。

【参考文献】

- ・2013年海外情勢報告 北米地域にみる厚生労働施策の概要と最近の動向 (カナダ) (厚生労働省ホームページ)
- ・カナダにおける国と地方の役割分担 (財務省ホームページ)

3. 調査概要

(1) サウスバンクーバーネイバーフッドハウス

担 当

鎌ヶ谷市	こども支援課	木 村 真喜子 (班長)
柏市	地域保健課	中 沢 愛 子 (写真責任者)
千葉市	男女共同参画課	荒 井 紀 子 (記録責任者)
君津市	子育て支援課	鈴 木 淳 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月18日 (月)

訪問先

カナダ ブリティッシュコロンビア州 バンクーバー市
「サウスバンクーバーネイバーフッドハウス」

面会者

ザラ・エスメール 氏 (エグゼクティブディレクター)
ジャネット・ワング 氏 (チャイルドケアマネージャー)



サウスバンクーバーネイバーフッドハウス施設内にて説明者のザラ・エスメールさんと

1. バンクーバー市概要

バンクーバー市は、面積は約113平方キロメートルの都市で、人口は約60万人であり、カナダで3番目に多い。カナダ西海岸ブリティッシュ・コロンビア州に位置し、太平洋に面し、海と山に囲まれている。気候は温暖であり、豊かな自然に恵まれ、原生林がそのまま残っているスタンレー・パーク（450ヘクタール）をはじめ、数々の庭園や公園がある。

2010年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されたバンクーバーは、以前からバリアフリー化が進んでおり、1986年にバンクーバーで開催された交通万博のテーマ「Freedom to Move」に象徴されるように、障害を持った方が自由に移動できるまち造りがされている。さらに、バンクーバー国際空港は、障害者にも健常者にも使いやすいユニバーサル・エアポートとして国際的に高い評価を受けている。

また、様々な文化、言語を持つ人々が住むバンクーバーは、その多様性を活力と繁栄の源と考え、1996年からは、文化的な調和の促進に特筆な貢献をしている個人や団体に対し、文化調和賞（Cultural Harmony Awards）の授与を実施している。



2. 訪問先の概要

(1) ネイバーフッドハウスについて

カナダ BC 州のバンクーバー市には、2018年現在、13のネイバーフッドハウスがあり、地域住民のニーズを満たすための活動が実施されている。

今回訪問したサウスバンクーバーネイバーフッドハウスは、バンクーバー市の南東に位置し、1977年に BC 州ネイバーフッドハウス協会のメンバーとなり開設された。

ネイバーフッドハウスとは、イギリスのセトルメント運動を源流としセトルメントハウスやコミュニティとも呼ばれている地縁型コミュニティのことであり、移民支援組織としての歴史を持つ。ネイバーフッドハウスでは、地域の人の日常生活を包括的に支援するプログラムとサービスが展開されており、地元の大学生、高校生や地域住民などがボランティアスタッフとなって運営されている。

通常、ボランティア団体がサービスを提供する場合、テーマ設定をされている場合が多く、対象者は限定される。しかし、ネイバーフッドハウスでは、対

象者はその地域に住む全ての人々であり、多種多様なテーマ設定に基づいたサービスが存在する。また、地域の特性によりプログラムとサービスが異なる。

(2) コミュニティセンターとの比較

ネイバーフッドハウスと類似するものとして、コミュニティセンターがあるが、様々な異なる点がある。例えば、コミュニティセンターは、自治体からの補助金で成り立っているが、ネイバーフッドハウスでは、運営資金を個人、法人、政府などから集めたり、寄付にも頼ったりしている。コミュニティセンターのプログラムは、施設側が決めた内容となるが、ネイバーフッドハウスでは、市又は州の保健部門と連携した子育て支援、シニアに対する支援等、地域の要望に基づく内容である。また、使用される言語もコミュニティセンターでは、英語であるが、ネイバーフッドハウスでは、英語の他、中国語、パンジャブ語、韓国語等である。更に、ネイバーフッドハウスで提供されるプログラムは、無料又は低料金である。



施設入口



吹き抜けになっている室内中央フロア

(3) ミッションとダイバーシティ宣言

サウスバンクーバーネイバーフッドハウスでは、それぞれの文化における差異又は類似点を受け入れるという多文化主義的アプローチを実践し、人々が互いに尊重し合える関係を構築する目的から、次のようなミッションとダイバーシティステートメント掲げられている。

なお、ダイバーシティステートメントは、サウスバンクーバーネイバーフッドハウスに限ったものではなく、コミュニティセンターや他の非営利団体にも見られる。その内容は多文化主義の歴史や先住民への敬意として掲げられているが、サウスバンクーバーネイバーフッドハウスのように“ALL”という単語を何度も使用し、全ての人にわかりやすく親しみやすい言葉で表現している。この団体が第一目的としている「人々の交流の場の形成」を明確にする重要なキーワードであると言ってもよい。

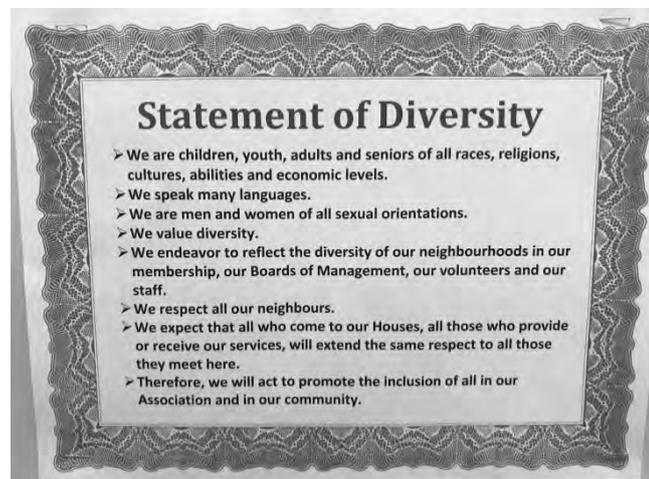
【ミッション】

- ▶ コミュニティーサービスの提供をボランティア主導で行う。
- ▶ 私たちの任務は、私たちの地域をより住みやすい場所にするところである。
- ▶ 私たちの目標は、人々が自分たちの生活を喜んで受け入れることを可能にし、そして自分たちの地域コミュニティを強化することである。
- ▶ 私たちの課題は、様々な人々の変化するニーズに合った新しいプログラムやサービスを開発し、多様なコミュニティと共に活動をすることである。



【ダイバシティステートメント】

- ▶ 私たちは、全ての人種や宗教、文化、能力、経済レベルにいる子どもや若者、大人、高齢者を受け入れる。
- ▶ 私たちは、多言語を話す。
- ▶ 私たちは、全ての性的志向の男性や女性を受け入れる。
- ▶ 私たちは、多様性を尊重する。
- ▶ 私たちは、私たちの会員や理事会、ボランティアスタッフにおいて地域に住む人々の多様性を反映するよう努力する。
- ▶ 私たちは、全ての隣人住民を尊重する。
- ▶ 私たちは、私たちの家に来る全ての人（サービスを与える又は受け取る全ての人）が、同じ敬意をここで出会う全ての人々に示すことに期待する。
- ▶ ゆえに、私たちは私たちの協会及びコミュニティにおける全ての包括的な取組を促進させ、活動し続ける。

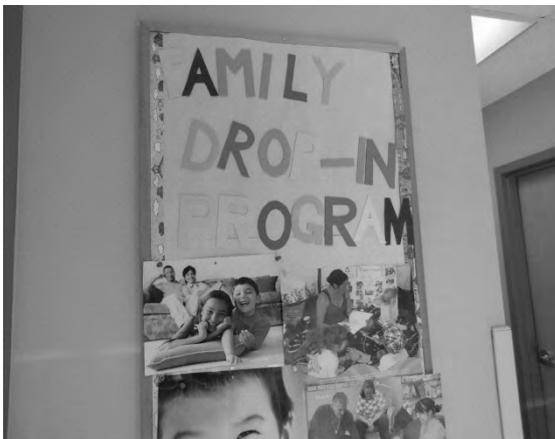


3. 提供各種プログラム内容

前述したとおり、ネイバーフッドハウスでは、地域に根ざしたプログラムが無料又は低料金で提供されている。ここでは、ライフステージごとのプログラムを紹介する。

① ファミリー向けプログラム

子どもから10代前半までのプログラムを提供している。6歳以下の子どもに提供されるプログラムとして、子どもと親が自由に来て遊ぶことができるドロップインプログラム、プリスクール（保育園）、学童保育がある。また、思春期（9歳～12、3歳）の子と親との関係のプログラム、Tween and Me 等がある。親がグループの中で互いの体験や不安を話しあうことによって、子育てのスキルを高め、自信を取り戻すNPプログラムも提供されている。



ファミリードロップインプログラムの看板



子どもの遊具が設置されている屋上



子ども達の作品が並べられている室内



各種プログラムや利用者の誕生日の紹介

② ユース向けプログラム

英語の話せない新移民（13～16歳）に対するプログラムや英語が話せる在住及び新移民が行うユースアドバイザー制度（14～18歳）がある。ユースアドバイザー制度は、リーダーシップ力をつけることを目的とし、大人への教育としてバイオサイクルといった環境保全を主導したり、宿題の手伝いや小学校での家庭教師をおこなったりする。

③ アダルト向けプログラム

ユースと同様、移民向けプログラムとして、英語教育、コンピューター教室等があり、また就労支援もある。



入り口の脇には各プログラムの案内が掲示されている

4. 質疑応答

Q 利用者について

A 赤ちゃんから高齢者まで地域に住む全ての人々が対象者である。ただし、地域の特性により、提供サービスには差がある。高齢者向け体操や食事等の各種デイサービスもある。デイサービスは、バンクーバー沿岸保健局が担当し、局からの決定に従い、各種提供され、自立可能な（施設に入所するまではいかないレベルの）高齢者が利用する。

Q 自治体等との連携について

A デイサービスは保健局と連携している。州政府の省庁にある州民の住居を支援する部署とも連携している。また、コミュニティセンターとも連携し、例えば、センターで実施するプログラムに職員を派遣することもある。さらに、NPOとも連携している。

Q ボランティアの募集と登録制などの整備について

A 平成29年のボランティアは、689人である。内訳として約300人がユース、約200人はシニアで構成されている。ユースは学校の単位で必要なため、募集に困難は感じていない。メンバーになるには、まず1年に5回あるイベント（ビンゴ等各種）に参加してもらう。その後、ボランテ

ィア登録への申請を受けて、本登録という流れになる。登録に必要な資格について、まず、社会的弱者が安心してプログラムを受けられるよう犯罪歴がある人はなれない。無犯罪証明書とやる気があれば、登録できる。やりたいことによって部門に分かれ、オリエンテーションは部門ごととなる。

Q LGBT への配慮について

A もともとカナダが誰をも差別しない風土である。特別なプログラムはないが、レインボーフラッグ※を用意したり、GENDER NEUTRAL トイレ（誰でも使えるトイレ）を整備したり、フレンドリーなスペースを用意している。

※LGBT の尊厳と社会運動の象徴。性の多様性を尊重する姿勢を表現するシンボルとして「6色の虹」がよく用いられる。



GENDER NEUTRALトイレのマーク



吹き抜けフロアに飾られているレインボーフラッグ

高齢者には理解が難しい分野ととらえているが、対話が非常に重要と考えているため、コミュニティスペースに重きを置いている。また、LGBT の親のためのプログラムも作りたいと思っているが、ネイバーフッドハウスに来ることができない地域の人もあるため、まずはこちらから外にでて、需要をつかみ、数年後の目標としたい。

Q 自治体等との連携はほとんど保健局になるのか。

A ネイバーフッドハウスは非常に地域との関係が密接であるため、市の地域調査に協力している。また、地域の代表として市に意見を述べることもある。費用について、年間運営費用400万ドルのうち、バンクーバー市から年間11万ドルの補助を受けている。家庭とこども省(州政府)及び移民関係連邦政府とも密接な関係があり、スタッフの人件費を負担してもらっている。

Q DV の把握について

A DV ワーカーと地域を支援するファミリーサポートが協力して各家庭の状況を把握し、連携をしていくが、難しい面もある。また、DV のサインをど

こで見極めるのか、研修等もしている。しかし、より一層のサポートは必要であると感じている。

Q ネイバーフードハウス担当地区やサポート外の地域について

A ネイバーフードハウスは2018年現在13施設あるが、ハウスがない地区もある。また、一つ一つのエリアが非常に広く、例えば、本ハウスは9万1千人が担当エリアになるが、来ることが困難である利用者がいることも把握している。翌年の4月には新しいネイバー



フードハウスもオープンし、より多くの住民が利用できる環境を提供できるが、基本的に不足感は否めない。ネイバーフードはロンドンから始まり、オーストラリア、ドイツ、フィンランド等に広がり、今は世界的な会議なども開催されている。やはり全地域にあるわけではないが、存在する地域ではその重要性は伝わっていると思う。

5. まとめ

ネイバーフードハウスはセツルメント活動を源流に持ち、ヨーロッパやアメリカなど世界中に点在している団体である。各ネイバーフードハウスが行う事業は、地域のニーズに沿ったものであるため、地域により異なる。しかし、そこで行われるプログラムは、個人と個人を結びつける「ハブ」のような役割を担い、活動の目的は「人々の交流を育む場の形成」であると言える。

ネイバーフードハウスにおけるサービス及びプログラムは、全ての人々が利用できるように無料又は低料金である。ネイバーフードハウスにおける代表的なサービス及びプログラムは、職業訓練プログラム、働く親のための保育や親教育プログラム、高齢者のためのサービス、移民者の社会的孤立を防ぐプログラム、健康増進のためのリクリエーション活動などである。これらのサービス及びプログラムは、地域住民のニーズに基づく。サービス及びプログラムの提供方法の特徴は、利用者に対して行う専門的な援助ではなく、一人の人間としての非専門的なサポートである。ネイバーフードハウスは、例えるなら地域の全ての人々が訪れることのできる「自宅のリビング」のようなものである。その場所を通じて、個人・家族・地域を繋ぎ合わせて補完、補強する役割を担っている。

社会事業の専門分化が進むにつれ、需要と供給をスムーズに行うために分野ごとの支援体制が整えられてきた。すなわち、乳幼児は保育園又は幼稚園、就

労支援はハローワーク、介護はデイケアサービスといった具合である。そうした時代の流れにおいて、利用者を限定しないネイバーフッドハウスの活動は特殊であると言えよう。また、サービス及びプログラムをとおして、個々人のニーズを満たすだけでなく、利用者が「いつの間にか」参画者として活動に取り込まれることもある。例えば、ファミリードロップインプログラムを利用していた母親が、主催者として活動を行う場合もあるが、背景にはネイバーフッドハウスが、単に無料又は低料金で利用できるといった表面的なことではなく、相互扶助の思いが見られると同時にスタッフによる利用者の自発的行動を促す働きかけ及び支援がある。

さて、我が国の子育て支援に目を向けてみると、子ども・子育て支援新制度のもと、地域の多様な世代による子育て支援への参画が期待されている。しかし、それは、利用者はあくまでも利用者としてのニーズを満たし、ボランティアはボランティアとして活動に参画し、子育て支援員は子育て支援員としての専門性を生かした子育て環境の整備や支援をするといった役割の固定化がなされている。地域の多様な世代が子育て支援に参画することは重要である。つまり、今日の我が国に求められることは、従来型の専門化されたサービスという枠組みではなく、地域に住む人々を結びつける「交流の場」であり、そこから育まれる自然な相互扶助関係の新たな仕組みが必要である。

(参考文献)

- ・伊志嶺美津子(2009). 「カナダの子育てと子どもの最善の利益」 『こどもの文化』, 41, 68-73
- ・内閣府ホームページ
- ・外務省ホームページ
- ・岡野聡子(2017). 「カナダ・ネイバーフッドハウス研究Ⅰ」, 181-197
- ・岡野聡子(2015). 「多世代交流としての子育て支援に関する研究」, 1-65
- ・岡野聡子(2012). 「非営利団体における社会サービスの提供に関する一考察」 『環太平洋大学研究紀要』, 5, 31-39
- ・横浜市ホームページ

誰もが自分らしく生きることを認め合う社会へ～LGBT への配慮について～

カナダは、世界で初めて多文化主義を導入した国である。多文化主義とは、他者のオリジンを尊重し、共存していく考え方であり、カナダは、この考えに基づき、人種や民族等にかかわらず、個人の平等の権利を保障し尊重する社会が形成されている。多様性の受容は、人種や民族だけにとどまらず、年齢や性別、そして、性的指向及び性自認においても同様であり、例えば、法的にも、「同性結婚の認可」「同性コモンローパートナー（事実婚）の権利」が保障されている。

今回の視察においても、サウスバンクーバーネイバーフッドハウスでは、まず施設を入ったところにレインボーフラッグが掲げられ、LGBT フレンドリーが表明されていた。また、多目的トイレを整備するなどトランスジェンダーへの配慮等も実施されている。

また、トロントにおいては、レインボーパレードが近かったこともあり、街中にレインボーフラッグが掲げられ、街全体が LGBT をサポートする雰囲気となっていた。なお、パレードについて、2016年には、首相も参加しており、国を挙げて LGBT 支援をするという姿勢が示された。

一方、我が国は近年 LGBT を取り巻く環境は、大きく変化し、関心が高まりつつあるものの、理解が進んでいるとは言い難く、地方自治体においても対応を模索しているところである。

そのような中、国は「ニッポン一億総活躍プラン」等において、「性的指向、性自認に関する正しい理解を促進するとともに、社会全体が多様性を受け入れる環境づくりを進める。」と明記した。

さらに、オリンピック憲章に「性的指向による差別禁止」が加えられたことから、更なる LGBT への配慮意識の醸成が求められている。

LGBT への理解促進と支援にあたっては、例えば、同性パートナーシップ制度等のソフト面の整備や、トランスジェンダーの方が使いやすいトイレを設置する等のハード面の整備等、各種サポートが考えられる。しかし、制度を利用するということは自分が当事者であるということを表明することとなり、アウトティングに繋がる恐れがある。やはり大切なのは、「カミングアウト」「アウトティング」という言葉が不必要になるぐらいの多様性の受容ではないだろうか。

今回の視察においては、カナダの「誰をもありのまま受け入れる」という風土を肌で感じることができた。このように多様性を受容する社会であるから、同性結婚などの制度も成立しているのであろう。

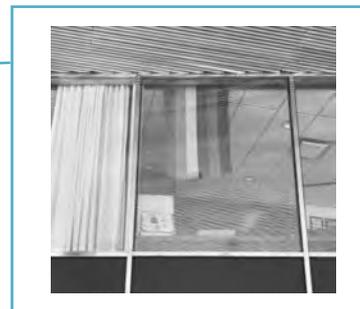
今後、日本に必要なのは、制度もさることながら、この風土の醸成である。そのためには、丁寧な周知啓発が必要だ。また、周知にあたっては、行政が LGBT を支援するという姿勢を明白に示すことが重要になると考える。違いを尊重す

る社会の実現は、LGBTのみならず、すべてのマイノリティの生きやすさにつながることを念頭におき、行政は各種施策を実施していかなくてはならない。

参考 トロントで見られたレインボーフラッグ等



街中にレインボーフラッグやレインボーカラーのオブジェが設置され、街全体がLGBTをサポートする雰囲気となっている。



トロント市庁舎にもレインボーフラッグが掲げられていた。

(2) ボーイズ&ガールズクラブ BC

担 当

鎌ヶ谷市	こども支援課	木 村 真喜子 (班長)
柏市	地域保健課	中 沢 愛 子 (写真責任者)
千葉市	男女共同参画課	荒 井 紀 子 (記録責任者)
君津市	子育て支援課	鈴 木 淳 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月18日 (月)

訪問先

カナダ ブリティッシュコロンビア州 サレー市
「サレークラブ (ボーイズ&ガールズクラブ BC) 」

面会者

コリン・リンチ氏 (クラブコーディネーター)



「サレークラブ(ボーイズ&ガールズクラブ BC)」の入り口で説明者の方々と

3. 訪問先の概要

(1) 「ボーイズ&ガールズクラブ BC」の概要

ボーイズ&ガールズクラブは、1930年代からスタートし、80年以上にわたり放課後の子ども達に各種プログラムを提供している。子ども達に安全な居場所を提供すると同時に社会に出て行けるスキルを身につける施設であり、メトロバンクーバー内に12か所ある。今回訪問したサレークラブはサレー市の北西に位置している。

サレークラブでは、以下の4つのアウトカムを目指している。

- 1 仲間と仲良く
- 2 健全な生活を送る（そのため、他人に尊敬の念を持ちながら、健全な選択ができる環境を提供する）
- 3 リーダーシップ（コミュニティに貢献できるリーダーシップを目指す）
- 4 生涯教育（学校生活が終わっても様々なものに興味を持てるようにする）

これらのアウトカムを実現するために、ドロップインプログラムを提供しており、子ども達がそれぞれスケジュールに合わせて柔軟に参加できる仕組みを構築している。また、スタッフは、子どもと同様に保護者とも、コンタクトをとることを重要視している。

サレークラブでは、現在、460人メンバー登録があり、1日あたり110人の利用がある。利用者は30%移民、7%先住民であり、また、30%がシングルペアレンツである。

会費は、利用者の負担感が少なくなるようできるだけ低く設定し、基本年間200ドルとし、所得に応じて費用が決定する。30%の免除制度も整備し、それに伴い、対象者が分からなくする配慮も徹底している。

4. 視察内容

【運営体制等】

- ・寄付金を募集
- ・市の補助金あり
- ・サレークラブは比較的小さく、市の後援で作られてものは約8倍大きく、ティーンズ用ハウスもあり

【リスクマネジメント】

- ・全てのスタッフが応急処置可能
- ・報告体制も整備されており、事案が発生した際はすぐ本部に報告し、再発防止策をリーダーシップチームで検討

【1日の流れ】

- ・14:30から18:00まで
- ・登所時にサインイン、帰所時にサインアウト
- ・おやつからスタート（残す子もいるが、貧困層の主栄養となっている場合もあり、柔軟な対応が求められる）
- ・家族が迎えにくる場合もあるが、一人で帰るのも可能



施設外観

【プログラム等】

- ・飽きがこないよう多くの種類のプログラムを提供（体操、工作、ゲーム、料理、芸術など）
- ・アイスホッケーなどのスペシャルプログラムもあり、費用負担なしで受講可能（費用は400万ドル程度）
- ・プログラムは1つ45分で1日3つまで受講可能
- ・ホームワーククラブ、音楽クラブなどの12のクラブがあって、ボランティアにより運営



子ども達との交流「折り紙」

【学童保育の考え方】

- ・学童保育では、誰を対象にするかが重要と考えている。行く場所がない子どもに来てもらうことを目標に、以下の3点を重要視している。
 - （費用）補助金を整備
 - （内容）多様なプログラムを整備
 - （場所）学校の近くに設置
- ・チャイルドケアセンターとクラブの差は、前者は子どもの安全のための施設であり、後者は教育施設になる。日本の学童保育的な意味もあるが、クラブはそれに加え教育を考えている。
- ・北米に「子どもが全てにおいて成功的になるには、（次の）最低3人の大人が必要」という調査結果がある。

- (親) 家族
 - (学校) 家の外の人
 - (地域) 家の外の人
- もし、3人の大人がいない子どもがいれば、ボーイズ&ガールズクラブがそれになれるようにと考えている。他のクラブだが、奨学金の情報を子どもに提供するようなこともする。



クラブ BC が併設されている小学校前

5. 質疑応答

Q 面積あたりの定員について

A チャイルドケアセンターにはあるが、クラブにはない。需要に応えるため、クラブはチャイルドケアセンターにはしない。面積の要件を除けば、チャイルドケアセンターの要件を満たす高品質のサービスを提供している。

Q 薬物への関与とサポートについて

A アルコール及び薬物問題は減少している。しかし、数値的には減っているが、大量のアルコールを摂取する等深刻な案件が増えている。飲酒には、相当の理由があると考えている。したがって、飲酒をしないように言うのではなく、理解をさせることが重要であると考えている。薬物が合法化された後、どの程度子どもに影響があるかは分からないが、サポートは続けていく。他の施設には、専門知識スタッフがいる場合もあるが、当クラブでは、前述した3人の大人のうちの一人になり、サポートしていく。一つ一つの案件に対処するのではなく、全体として対応したいと考えている。

Q スタッフの確保について

A スタッフには、大学生もはいつて運営されている。クラブ卒業生が、ボランティアとして参加する場合もある。大学生の場合、授業スケジュールがあるため、調整が難しいことがあるが、BC州の失業率は低いため、人材確保が難しい状況になっている。

Q いじめ問題について

A いじめはある。発生した場合は、なぜいじめめるのか、どうやって相手を尊重するのか、スタッフと話し合う。また、プログラムを通じて、尊重し合うことを学ぶ。

6. まとめ

ボーイズ&ガールズクラブは、単に放課後を過ごすだけではなく、子どもの総合的な発達を促進することを目的としている。そのため、親の就労の有無に関わらず、全ての子どもにクラブの利用が保障されている。また、クラブにおける活動内容についても、子どもの権利の観点から、内容に子どもの意見を反映させ、子どもにとって楽しいこと、子どもの成長・発達に相応しい内容であることが大切であるとしている。スタッフの「子どもをサポートする3人の大人のうちの一人になる」という言葉から、子どもを第一に考える姿勢が見られた。また、サービスを安定して提供するため、寄付金募集やボランティアを確保するなど運営体制を整えていた。

このような状況と比較すると、我が国の放課後児童クラブの現状は、子ども達にとって相応しい場所とは必ずしも言えない。放課後児童クラブに関する議論が、女性の就労促進が重点に置かれており、利用者する子ども達にとってどうあるべきかといった検討が不十分である。放課後を子ども達の1日の時間軸として捉えられるべきであり、放課後児童クラブは子どもにとって「相応しい放課後の過ごし方」という大きな問題の一環として論じるべきであろう。

我が国の放課後学童保育は発展の過渡期にあり、制度としてはまだ成熟していない。しかし、需要は高まる一方であり、多方面から多くの期待や課題が寄せられている。今後の放課後児童クラブのあり方については、「子ども達にとって相応しい放課後の保障」を軸にし、さらなる見直しが必要であろう。これは、子どもの権利条約を批准した国として、当然取り組むべき課題であり、安心して子どもを産み、育てられる環境の整備や将来の人材育成の観点からも求められているのではなかろうか。

(参考文献)

- ・市町村海外派遣研修資料
- ・厚生労働省ホームページ
- ・日本ユニセフ協会ホームページ
- ・江東区ホームページ
- ・池本美香(2016).「放課後児童クラブの整備の在り方」『JRI レビュー』
Vol. 5, No. 35, 21-49

(3) ウェストサイドファミリープレイス

担 当

長 柄 町	企画財政課	佐藤 幹宏 (班 長)
長 南 町	議会事務局	山本 和人 (写真責任者)
鋸 南 町	保健福祉課	山田 朋和 (記録責任者)
酒々井町	生涯学習課	中山 聡 (編集責任者)
御 宿 町	総 務 課	石井 学 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月25日 (月)

訪問先

カナダ バンクーバー市
「ウェストサイドファミリープレイス」

面会者

ハーディー氏



「ウェストサイドファミリープレイス」の入り口で説明者のハーディーさんと

1. 訪問先の概要

(1) 「ウエストサイドファミリープレイス」の概要

バンクーバー市にあるファミリーリソースセンターの一つで非営利慈善団体。ファミリーリソースセンターは、「家族に必要な人的・物的資源が全て揃っている場所」という意味に由来する、カナダで子育て支援の中心的役割を果たす特徴的な子育て家庭支援システムである。



「ウエストサイドファミリープレイス」のロゴ入り看板

1970年代初めに高校の元クラスメートの女性2人が同じような年齢の子どもを持ってから再会、幼児を持つ保護者が気軽に集まり、情報や経験を共有できる場所（ドロップイン）を提供することを目標に始めた団体。

1916年建築の古民家を1980年代に購入し、個人からの寄付により内部リフォームしながら運営している。このウエストサイドファミリープレイスがある地域は、バンクーバー市のなかでも富裕層が居住するエリアにあり、現在、中国の富裕層の増加等の要因でバンクーバー市は住宅価格が高騰しており、現在は3億円の価値がある建物を利用している。

2. 視察内容

① 設立の経緯

1970年代初めに高校の元クラスメートの女性2人が同じような年齢の子どもを持ってから再会、同じ年頃の子ども同士を遊ばせることができるとともに、同じ年頃の子を持つ親同士が堅苦しい雰囲気ではなく、気軽に立ち寄り、交流し、情報や経験を共有できる場所を提供することを目標に始めた。

② 理念

家族の関係（絆）を子どもの期間だけでなく将来にわたり長期的に強固にすることである。

また、学校生活が始まる前に、子どもたちの体の発育だけではなく心の準備を整えることも目的の一つである。

③特徴

子どもたちは遊びを通して多くのことを学ぶことから、子どもたちを自由に遊ばせることを重視している。

保育所やフリースクール等との相違点は、子どもだけ通うのではなく親も一緒に通う点にある。既成のプログラムではなく、利用者がやりたいことを助長する。

施設内は、さまざまな玩具や砂場遊びなどの道具が用意され、好きなものが使えるようになっている。

屋外には大きな砂場と滑り台、小屋などの遊具が充実している。室内は赤ちゃんが親とともに遊ぶためのカーペットエリアと、室内砂場や粘土等の感性を養うセンサーエリアに分かれている。



「ウエストサイドファミリープレイス」の施設の状況

④プログラム

・ドロップインプログラム

メインのプログラムである。9時30分～正午の間、好きな時に来て、好きな時に帰ることができる。ドロップインプログラムでは、健全な関係と子どもとのつながりは、遊びのやりとりを通じて達成されるという考えのもと、子連れのご家族に対し、新しい友人や、コミュニティー感覚を得る機会を提供している。また、1日の利用者は20～30人程度であり、プログラムに参加している間は携帯電話の使用は緊急時のみに限られる。

・NPプログラム (Nobody's Perfect Program)

このプログラムは親への教育プログラムである。0～5歳の子どもの親がグループの中で互いの体験や不安を話しあう機会を支援し、参加者の関心と懸念を共有する。スタッフが、一人ひとりの価値観を尊重しながらプログラムを進行し、両親は子育てのスキルを高め、自信を取り戻すことができる。また、講座終了後も参加者同士が子育て仲間としてつながっていくよう支援している。

この施設では、親が参加している間、子どものためのチャイルドミーティングとスナックが用意されている。

・マザーグースプログラム

赤ちゃんと両親のためのグループ体験プログラムである。言語感覚を身に着けることができる。英米を中心に親しまれている英語の伝承童謡の韻、歌、物語を使用し、ゆっくりとしたペースで実施している。



施設内での情報の共有と周知場所

[その他]

- ・サークルタイム（輪になって今日のお話）
- ・リトルシェフズ（食事づくりを通して、食の楽しみや栄養面の学習をおこなう）
- ・ポットラック（持ち寄りのパーティー）
- ・カウンセリング（いつでも話せる）
- ・服のリサイクル
- ・図書の出貸
- ・おもちゃの出貸

⑤スタッフ

スタッフは5人（幼児教育プログラム修了者、カウンセラー）と多数のボランティアで運営している。また、政府から夏の間学生を雇う資金を援助する制度を利用し、大学生を雇用している。その他、専門職（歯科医師・看護師・栄養士等）のボランティアもいる。長い歴史があることから、以前利用者だった人がボランティアとして事業に参加するケースもある。法人の理事はボランティアの最たるものとなっている。

⑥利用者

乳児～5歳児とその親が対象で、利用者は近隣の徒歩圏内の住民である。利用者の構成は2/3が親、1/3ベビーシッターとなっている。

利用料金は、会員制となっており、会費は年間40カナダドルとなっている。年会費のほかに、プログラムごとに利用料金がある。ドロップインプログラムでは1回2カナダドルの利用料金がかかる。週に20～30家族の利用がある。年間の延べ利用者は約17000人となっている。

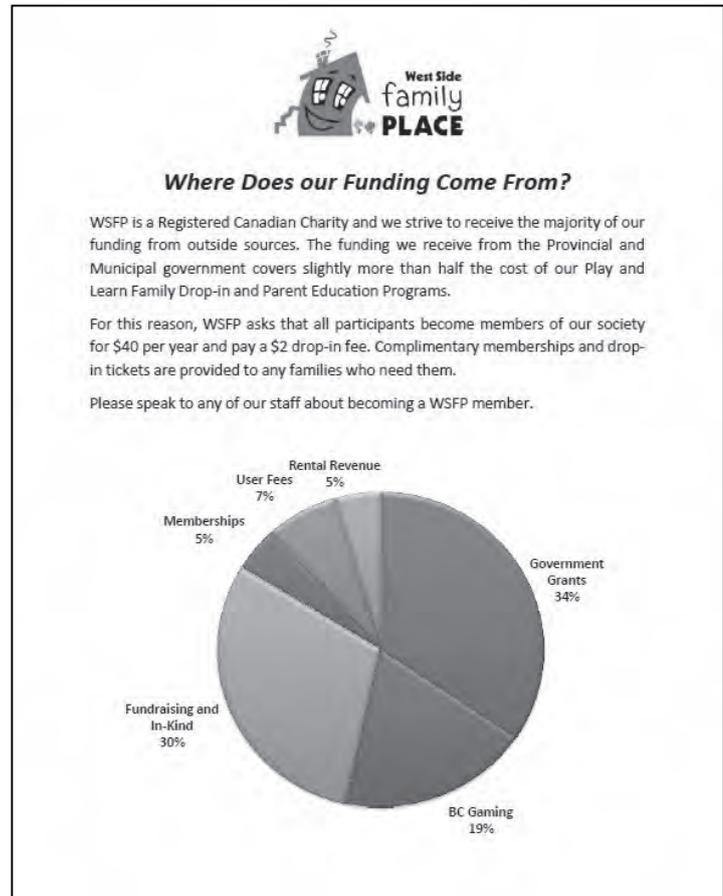
⑦その他

(行政との関係)

行政との関係は、資金面において連邦政府とブリティッシュコロンビア州政府、同州の宝くじ、カジノ等の収益基金プログラム（BC Gaming）のいわゆる公的資金で運営資金の54%を占めている。

虐待防止の観点で、子どもや家族の状況に異変を感じた場合には行政に連絡をしている。また、日頃の観察の中で、発達障害が疑われる子どもについても行政に連絡をしている。

親のメンタルヘルス等の対応できない場合は専門機関に繋いでいる。そのために、近隣のファミリーリソースセンターとの連携を図っている。



運営資金支援状況・内訳

(課題・今後の展望)

資金面で過半数の割合を占めている行政からの支援が減少傾向にある。そのため、寄付（ファンレイジング）に時間を多く費やす必要がある。また、築100年の建物を使用しているため、維持管理コストが増加している。銀行等と連携し長期的資産運用をしていく必要がある。また、建物についても将来的には新しい建物にし、拡張していきたいが、現在の建物に愛着を持っている利用者も多い。

ボランティアについては、高齢者のボランティアが不足している。カナダは広大なため、高齢者と触れ合うことができない家族も多いことから、高齢者ボランティアスタッフを募っていききたい要望があった。

時代とともに、親のニーズの変化にともないサービスを提供する必要があるほか、今後は、参加が少ない男親向けのプログラムを増やしていく予定である。



佐藤班長からハーディーさんへお礼

3. まとめ

国・地域が違っても、子どもを持つ親の問題は共通するものが多い。ウエストサイドファミリープレイスを視察して、この施設が担う役割や実施している内容は、日本の「子育て支援センター」と大きな違いは感じられなかった。

日本の「子育て支援センター」は地域のつながりの希薄化、自分の生まれ育った地域以外での子育ての増加、児童数の減少等、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や、子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点として全国に約7000か所整備されている。

この7000か所の子育て支援施設とウエストサイドファミリープレイスの違いは、行政主導による設置かどうかにある。

行政主導の設置のため、プログラムも社会問題化した子育て中の親の孤独感や不安感の解消が中心となり、親同士の交流がメインであって、プログラムが定型化しているという課題がある。

これに対し、ウエストサイドファミリープレイスは、**Nobody's Perfect Program**をはじめとする、親が子どものかかわり方を学ぶプログラムを提供する意識が強く、自発的な活動であるので豊かで工夫された多彩なプログラムを提供できると感じた。

全国に7000か所に広がっている子育て支援の拠点がプログラムをドロップインだけで満足することなく、**Nobody's Perfect Program**の意識を強めていくことが、今後の子育て支援に必要と考える。

(参考文献)

- ・ウエストサイドファミリープレイス視察時資料
- ・市町村職員海外派遣研修資料
- ・厚生労働省HP
- ・カナダにおける家族・子育て支援～ファミリーリソースセンターを視察して～(坂梨・水野・棒田・近藤・山本) 関東学院大学看護学部紀要 vol. 3 No. 1 (2016)
- ・岡野聡子(2017). 「カナダ・ネイバーフッドハウス研究 I」, 181-197
- ・カナダにおける社会福祉サービスの提供 (財団法人自治体国際化協会) 平成20年2月
- ・育児情報誌「miku」vol. 35 冬号(2014)株式会社絵本ナビ

(4) シュタイナートロントスクール

担 当

長 柄 町	企画財政課	佐藤 幹宏 (班 長)
長 南 町	議会事務局	山本 和人 (写真責任者)
鋸 南 町	保健福祉課	山田 朋和 (記録責任者)
酒々井町	生涯学習課	中山 聡 (編集責任者)
御 宿 町	総 務 課	石井 学 (編集責任者)

訪問日

平成30年6月29日 (金)

訪問先

カナダ トロント市
「シュタイナートロントスクール」

面会者

ケイティ氏、マエラ氏



子どもたちがのびのび過ごしている林の中で説明者のケイティさんマエラさんと

1. 訪問先の概要

(1) 「シュタイナートロントスクール」の概要

トロントのダウンタウンから公共交通機関で約1時間、オンタリオ州ソーニルの郊外にある私立の幼小中一貫校。キャンパスは、40エーカーを超える広大な敷地に、メインスクール、ウォルドルフ教員養成施設、退職者コミュニティ、や土曜日のオーガニックマーケット等の施設を備えている。



シュタイナートロントスクール

メインスクールの建物には、大きな教室、2つの体育館、音楽と練習室、芸術、木工と金属スタジオ、舞台、図書館、コンピューターラボ、キッチン、学生用の小さなカフェがあり、全校生徒は350名程の学校である。

0歳児の保育から高校卒業まで、創造的な考え方ができる人間に成長できるためのシュタイナー教育の理念に沿って教育カリキュラムを行う創立50周年の学校である。

ドイツで活躍した哲学者ウォルドルフ・シュタイナー（以下「シュタイナー」）が提唱したものであり、授業での芸術的体験を通じて意思、感情、思考を子どもに年齢に合わせて育む。9月から6月第2週までの期間に遊びと共に、信頼できる大人と参加することで子どもにとっても安心感が得られ、大人は同じ年頃の子どもの持つ者同士の意見交換ができる環境にある。

視察当日は、夏休み期間であったことから、生徒の人数も少なかったが、サマースクールでは普段通っていない子ども達の受入れが可能であり、この日も陶芸教室や敷地内の林など屋外教室で学ぶ子どもで賑わっていた。

2. 視察内容

① 設立の経緯

シュタイナー・スクールは、オーストリアの煙草会社のオーナーであったモルトがドイツで活躍したシュタイナーの理念に共感して、1900年代に工場労働者の学びの場として設立したことが始まりである。現在カナダには8校、アメリカには230校ある。

②理念

シュタイナー教育の創始者である哲学者のシュタイナーは、自らは教育・建築・農業を学んだ。シュタイナーの教えは「人智学」に基づいている。0歳から21歳まで、神経科学の裏付けによる自我の7年周期に合わせて、創造的な考え方ができる人間になるよう教育をおこなう。

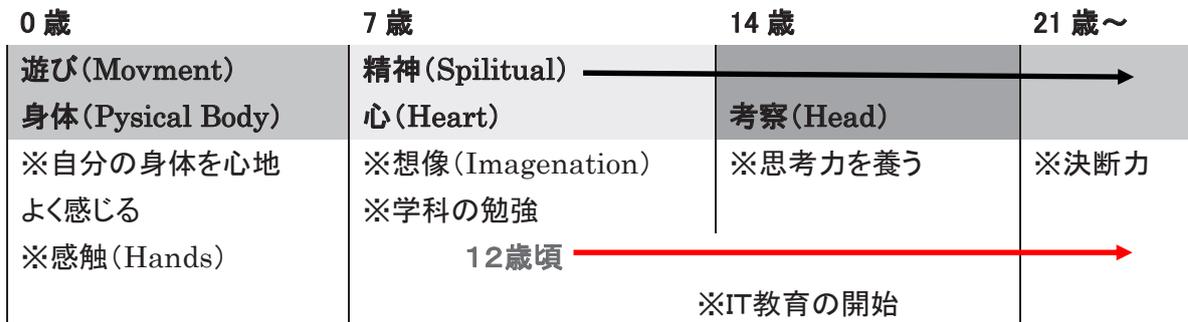
③特徴・プログラム

私立学校であるため、学校設備は整っており、芸術・感性を豊かにする目的で直角を避け、曲線を多用した施設になっている。私立学校は州の教育法に従う義務はないため、運営方針やカリキュラム、費用等は各学校によって大きく違う。シュタイナートロントスクールは学費が年間2万カナダドルとなっており、私立学校では中間ぐらいとなっている。

教育プログラムは、シュタイナーの7年周期の理論に基づいて、成長期に合わせ実施されており、1クラスは25人程度である。

人生を送るにあたって、何に興味があり、何に楽しめるかに気付かせる教育であり、成長・発達に合わせて、自分自身を感じ取るためのものとなっており、幼児教育だけでなく学校教育も行っている。

シュタイナー教育における「7年周期理論」イメージ



0～7歳：動き・体を作る時期 “hands”

遊びを通して運動神経やバランス感覚など体を発達させる時期であり、最初の7年が重要視されている。

このことから、幼少の頃はスクリーンに触れさせない考えがあり、テレビやタブレットなどは見させず、手や足をたくさん動かすこととしている。この時期は“No Media”としている。

7～14歳：心・感情を育てる時期 “heart”

教科として勉強を教えていくだけでなく、多くの話をして想像力や感受性を豊かにしていく。

14～21歳：知育を強調する時期 “head”

思春期を迎える時期であり、自我の裏付けなど、頭だけでなく心にも響くような教育を行っている。

“heart”の時期で教科の勉強を始めるが、この時期はイメージーションを働かせる時期のため、ゲームやお話しに例えながら教科の勉強を行っていく。このように、適切な時期に適切な教育をおこない、人生を送るにあたって「何に興味があり、何に楽しめるか」を気付かせることを主眼としている。

体だけでなく心や頭を育てる時期になると“**No Media**”から“**Know Media**”になり、テレビ、パソコン、タブレットを使っていくなど成長のステージに合わせて教育を提供している。

また、人の脳は28歳まで発達すると言われ21歳から28歳までの第4期もあり、そこでは決断力が養われるとされている。

6月第2週から8月末までは夏休みであり、サマーキャンプ（デイキャンプ）を実施している。普段通っていない外部の学校や外国から生徒も受け入れている。

[サマーキャンプでのプログラム]

・木工 ・陶芸 ・美術 ・ガーデニング

4歳から6歳は3クラスあり、1クラス最大12名。7・8歳のジュニアクラス、9歳から12歳のシニアクラスはそれぞれ15名の定員であり、半日と終日の選択性となっている。

サマースクールでは親の仕事の都合も考慮しながら送り迎えの時間を含めてケアをしている。



子どもたちが作った陶芸作品



幼児クラスが利用している部屋

④スタッフ

シュタイナー学校の教員の資格は国ごとに異なっているが、アメリカやイギリスには専門の養成課程があり、カナダにおいては同国の教員免許を取得している者もいる。

1年生から8年生まで同じ先生が受け持つことが安全であり、また理想であるが、人材確保の観点から難しい状況である。

⑤利用者

「子どもらしく育てたい」、「人間性を重視した教育を受けさせたい」、「勉強だけではなく他分野の才能を伸ばしたい」等の親の願い、また多様性が見過ごされがちな既存教育の代替としてシュタイナー教育が受け入れられている。

入学試験はなく、幼少期の入学は先着順となっている。高校生では社会的であって感情が表せること、学習ができれば、入学は可能であるが、単位取得の関係もあることから、他の高校からの編入は困難である。

学費については、州によって異なるが、市・州からの支援はない。一方でドイツでは政府からの支援もあり、学費は安くなっている。

3. まとめ

今回視察したシュタイナートロントスクールは私立の幼小中一貫校である。

カナダの教育制度は日本と大きく違い、カナダには、日本の文部科学省のような、国家レベルで教育を管理・運営する機関はありません。中央政府は指針を示す程度で、教育の管理・運営は完全な地方自治制。教育権は、各州の教育省がもっている。そのため、カナダの多文化的伝統の保障により異なった就学体系が存在する例もあり、例えばBコース「観光」分野で視察した、「セント・ジェイコブス」メノナイトのコミュニティーでは、義務教育を14歳で修了することが認められている。

カナダでは、学年（グレード=Grade）は小、中、高校をグレード1～グレード12というように、一貫して数えます。区切りは州によって異なり、例えば、小・中・高でブリティッシュ・コロンビア（BC）州は7-5制、アルバータ州は6-3-3制、ケベック州は6-5制になっている。

<オンタリオ州の場合>

年齢	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
カナダの学年 (グレード)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
教育システム	初等教育						中等教育			高等教育		
	エレメンタリー								セカンダリー			

義務教育は、州によって少し異なるが、6～7歳から16歳までとなっている。初等・中等教育の年数が違ったりするが、公立の場合、基本的には日本の小学校から大学までとほとんど変わらない。

義務教育期間の授業料は、政府が負担している。ただし、これは税金を支払っているカナダ国民が対象で、留学生は対象外となる。高校課程を修了するには、規定の単位を取得しなければならないが、これも州によって異なっている。

今回視察したシュタイナートロントスクールがあるオンタリオ州では、州の認可を得た私立学校であれば高校卒業資格を得る事ができ、シュタイナートロントスクールでは卒業すると高校過程の卒業資格を得ることができる。

視察の中で見る事ができた児童・生徒たちは、緑あふれる広大な敷地の中にある恵まれた施設の中で、少人数で、のびのびと課題に取り組んでいた。また、大きな木が生い茂る林の中で、全身を使い遊んでいた。私立の学校ということもあり、日本の公立学校と簡単に比較することはできない。

しかし、ゆとりある施設で、少人数に対し教育を実践している姿は、少子化が進む日本において、児童が減少し、空き教室が増加した日本の小学校の現状と重なる部分があると感じた。

少子化が加速していく中、郊外のゆとりある学校施設の統廃合は避けることはできないが、安易にコストや規模だけで進めるのではなく、「郊外のゆとりある施設」「少人数」を短所ではなく長所ととらえ、可能性を探ることも必要である。

(参考文献)

- ・市町村職員海外派遣研修資料
- ・在日カナダ大使館HP
- ・非営利団体カナダ教育連盟（CEA）HP
- ・日本シュタイナー学校協会HP
- ・The Plain and Simple Facts ～Inside the Old Order Mennonite Communities of the St. Jacobs Area～ メノナイトセンターパンフレット

4. 視察全体を通じて～結論に代えて～

子育てに正解はないと言われるが、自分の子育てが合っているのかどうかについて、多少なりとも親が不安になるのは日本もカナダも変わらないと感じている。社会情勢の変化等により子育てについて、身近で協力し合うことや、経験を共有しにくい面があるが、今回視察した「サウスバンクーバーネイバーフッドハウス」、「ウエストサイドファミリープレイス」では、文化、習慣に関わらず、誰でも分け隔てなく受け容れ、NPプログラムやドロップイン等のプログラムを通じて、悩みを共有し、子と親の交流を促進し孤立を防ぐための取り組みがなされている。

こうした背景として、カナダでは憲法（※1982年憲法第27条）で多文化的伝統を保障していることが挙げられる。「誰しも参加できる」、「誰しも認められる」、「誰しも構成員である」という「共存」、「包摂」をテーマとしており、それが民族や文化による違いへの最大限の尊重のほかにも子育て支援、LGBT への配慮、障がい者等の社会参加という形で反映されている。

「移民国家」として、文化や習慣が違うあらゆる人々が、世界中から集うカナダが、平穏で共存して暮らすために辿り着いた結論だと感じている。

カナダと日本の子育て支援の違いとして、カナダは、子どもを中心に支援があるのに対して、日本は親が中心にあると感じている。その理由として、保育園や学童では、親の就労が基本であり、国を挙げて女性の社会進出を後押ししているからである。女性が社会進出し、その能力などを存分に発揮することは少子高齢化により、社会が縮小していきかねない日本が活力を維持しながら、平和で安心して生活していける社会を実現するための一つの「解」と思われる。

今回の視察で垣間見たカナダの現状と知見は、地域で働く私たちが、足腰の強い地域社会、地方自治のため大きな示唆となった。私たち海外派遣研修子育て担当メンバーは、この示唆を今後を活かし、より良い業務執行を行ってまいります。

平成30年度 市町村職員海外派遣研修 活動記録

☆ 事前研修 ☆

於:千葉県自治会館

日時	内容
第1回 5/10(木)	<p>【検討等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡航上の注意事項等 ・各班に分かれて打ち合わせ（役割分担の決定等） <p>【講演1】 カナダの農業と農業施策 立命館大学副学長・食マネジメント学部教授 松原 豊彦氏</p> <p>【講演2】 カナダの子育て NPO法人セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子氏</p>
第2回 5/16(水)	<p>【検討等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班に分かれて検討（グループタウンリサーチの検討等） <p>【講演3】 カナダの観光研究・ケベック州を中心に 立教大学観光研究所研究員 羽生 敦子氏</p> <p>【講演4】 カナダの社会と人々 神田外語大学外国語学部教授 矢頭 典枝氏</p>
第3回 6/8(金)	<p>【検討等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行程及び渡航上の留意事項(渡航前の最終確認等) ・各班に分かれて検討（質問事項の検討等）

☆ 現地研修 ☆

於:カナダ

日時	内容
6/17(日) ～ 7/1(日)	<p>【研修テーマ】 農業、観光、子育て 以上3テーマについて、計5回の研修を実施(詳細は別添「日程表」参照) Aコース:6/17(日)～6/24(日) Bコース:6/24(日)～7/1(日)</p>



現地研修の様子(皆さんとても親切で、いろいろなことを教えてくださいました)

☆ 事後研修・研修成果発表会 ☆

於:千葉県自治会館

日時	内容
第1回 7/20(金)	【発表】 各団員より所感発表 【検討等】 報告書作成に関する検討等(班毎に分かれて検討)
第2回 7/27(金)	【検討等】 報告書作成に関する検討等(テーマ毎に分かれて、報告書骨子及び成果発表骨子 について検討)
	【編集会議】 報告書作成に係る検討(班毎に会議開催)
第3回 8/31(金)	【検討等】 研修成果発表会資料の調製・発表準備、報告書作成の最終確認 【発表】 各テーマによる研修成果発表会



研修成果発表会

編集後記

平成30年度の企画にあたっては、昨年度に引き続き、市職員向けのコースと町村向けのコースを分けて設定しました。

現地研修に先立ち、視察中の着眼点や各テーマにおける問題意識を共有した上で視察に臨めるよう、事前研修会を開催し、訪問先の地方自治制度や視察テーマに関する講義を実施しました。

さらには帰国後において、研修成果を報告書としてまとめるとともに、研修成果発表会を実施するなど、帰国後の研修にも力を入れ、研修内容の充実を図りました。

事務局として同行した職員からは、「全員が協力的だった」、「熱心に視察先担当者の話を聞いていた」との報告を受けましたが、これらの感想は研修生の目的意識の高さを表したものだと思います。

今回の研修は、同じカナダという国において同じテーマで視察を行いました。各コースで訪れた視察先は異なります。

成果発表会では研修テーマごとに発表が行われましたが、異なる視察先で得た情報を互いに共有し、みごとにまとめあげたプレゼンテーションの出来栄には目を見張るものがありました。

帰国後は、それぞれの職場で普段の仕事に戻られた研修生ですが、今回の研修において築かれた人間関係は、もう一つの貴重な財産であると思います。

今回の研修を終えて、本事業の必要性を再確認することができました。次年度は、更なる充実した研修内容となるよう、努めて参りたいと思っております。

最後に。

当協会は、サマージャンボ宝くじ及びハロウィンジャンボ宝くじの収益金等を原資として、市町村の振興を図るため、資金貸付、交付金の交付等の事業を行っており、この海外派遣研修もそのひとつであります。

当協会に配分される宝くじ収益金のうち、3分の1にあたる額は「都道府県別発売実績割」により算定されます。宝くじをお買い求めの際は、是非「お近くの宝くじ売り場」で。

平成30年度 千葉県市町村職員海外派遣研修報告書

平成30年11月発行

編集発行 公益財団法人千葉県市町村振興協会
〒260-0013 千葉市中央区中央4丁目17番8号
千葉県自治会館
TEL 043-311-4162